秋田県文化財調査報告書第179集

遺跡詳細分布調査報告書

1989・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1989・3

秋田県教育委員会

序

本県は遺跡の宝庫といわれるほど、縄文時代を中心とする数多くの埋蔵文化財があります。これらの先人たちの残した文化遺産を保護していくことは、私たち県民に課せられた責務であります。しかし豊かで快適な県民生活をおくるための地域開発、特に基幹道路などの交通体系の整備は県民の切実な願いでもあります。

このように、保護と開発という相反する目的をもつ事業の調和のとれた行政施策が今日的課題であり、その基礎となるのが遺跡分布調査、遺跡範囲確認調査であります。

本報告書は昭和63年度国庫補助事業として実施した、東北横断自動車道秋田線建設事業（湯田町・横手市間）、大砂川地区農免農道整備事業等の遺跡分布調査と、東北横断自動車道秋田線建設事業（横手市・秋田市間）、国道105号改良工事、高速交通関連道路整備事業等の遺跡範囲確認の結果をまとめたものです。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係各機関に心から感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申しあげます。

平成元年3月25日

秋田県教育委員会
教育長　斎　藤　　長

例　　言

1　本書は、昭和63年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。

2　本書に掲載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は、秋田県教育庁文化課・秋田県立博物館・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は各担当が作成したものをそのまま掲載したもので、編集は秋田県埋蔵文化財センターが行った。

3　昭和59年度から実施している市町村単位の遺跡分布調査は、本年度北秋田郡と鹿角郡内の8箇町村で行われた。その成果は平成元、2年度に刊行する秋田県遺跡地図（中央版、県北版）に報告する。

4　遺跡範囲確認調査のうち、県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事に係る和田の台Ⅰ遺跡、唐松林館跡および大砂川地区農免農道整備工事に係る管先遺跡は、調査の結果、調査区内から遺構その他を確認できなかったので本報告から除外した。

5　報告書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の5万分1地形図、2.5万分1地形図と建設省、日本道路公団、秋田県鹿角土木事務所、同北秋田土木事務所、同仙北土木事務所、同鹿角農林事務所、同由利農林事務所が作成した1000分の1の地図および500分の1の地図である。

目　　次

序
例　言
第1章　はじめに …… 1
第2章　昭和63年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項 …… 1
第1節　遺跡分布調査 …… 1
第2節　遺跡範囲確認調査 …… 2
第3章　調査の記録 …… 5
第1節　遺跡分布調査 …… 5
1　東北横断自動車道秋田線建設事業（湯田町・横手市間） …… 5
2　森吉山ダム関係 …… 7
3　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事 …… 8
4　大砂川地区農免農道整備事業 …… 9
第2節　遺跡範囲確認調査 …… 10
1　東北横断自動車道秋田線建設事業（横手市・秋田市間） …… 10
下田谷地遺跡 …… 10
太田遺跡 …… 12
小出Ⅳ遺跡 …… 14
北田山田ケ沢Ⅰ遺跡 …… 16
北田山田ケ沢Ⅱ遺跡 …… 18
2　一般国道7号大館西バイパス工事 …… 20
片山館コ遺跡 …… 20
3　国道105号改良工事 …… 21
上岱Ⅰ遺跡 …… 21
4　高速交通関連道路整備事業（小坂インター） …… 23
はりま館遺跡 …… 23
5　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事 …… 33
五百刈田遺跡 …… 33
6　農道改良工事（農免農道を含む）関連 …… 35
一ツ森館跡 …… 35
諏訪台C遺跡 …… 37
上熊ノ沢遺跡 …… 39
ヲフキ遺跡 …… 42

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した昭和63年度の遺跡詳細分布調査は、北秋田郡・鹿角郡の８箇町村、東北横断自動車道秋田線（湯田町・横手市間）、森吉ダム関係、県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事、大砂川地区農免農道整備事業に係る遺跡分布調査と、東北横断自動車道秋田線（横手市・秋田市間）、一般国道７号大館西バイパス工事、国道105号改良工事、県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事、農道改良工事（農免農道を含む）関連に係る16遺跡の遺跡範囲確認調査である。これらの調査は既に策定してある調査実施要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県立博物館、秋田県埋蔵文化財センター職員等が昭和63年４月から同年12月にかけて実施したものである。

第２章　昭和63年度遺跡分布・遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地域内を踏査して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

(1)　計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。

(2)　調査の期間はおおむね１～５日間とし、地元の人々の遺跡についての情報を活用する。

(3)　確認された遺跡を地図へ記入するなどの記録は、必ず現場で行う。

(4)　遺跡の現況、遠景は必ず写真撮影する。同時に遺跡に至るまでの経路、目標を詳しく記録し、はじめての人でも迷わず現場に到着できるようにする。

(5)　使用する地図は2.5万分の１地形図と開発部局で作成した図面とする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県教育庁文化課　　主任学芸主事　　冨樫泰時

５　調査対象地域および事業名

(1)　北秋田郡・鹿角郡内の８箇町村

(2)　東北横断自動車道秋田線建設事業

(3)　森吉山ダム関係

(4)　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事

(5)　大砂川地区農免農道整備事業

第２節　遺跡範囲確認調査

1　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2　調査の方法

(1)　遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行う。

(2)　調査の期間をおおむね２～12日間とし、その期間内にできるかぎり発掘調査を面的に広げて遺構の確認に努める。

(3)　確認された遺構、遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録は現場で行う。その際遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは必ず写真撮影をする。

(4)　使用する地形図は開発部局で作成した一番大きな縮尺図面とし、新規に測量などは行わない。

(5)　遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

3　事業主体者

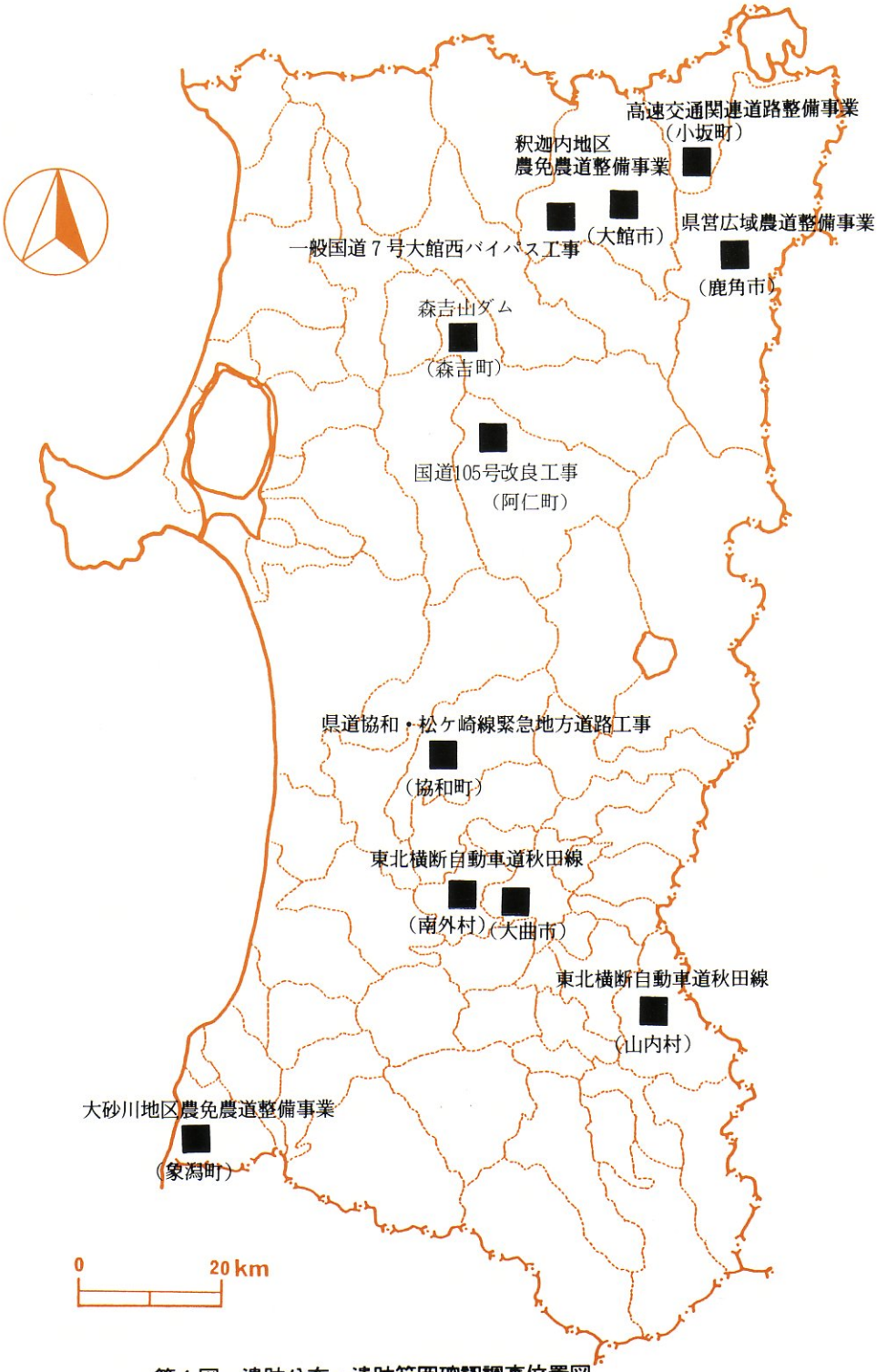
秋田県教育委員会

4　調査担当者

秋田県教育庁文化課	主任学芸主事	冨樫　泰時
秋田県立博物館	学芸主査	庄内　昭男
秋田県埋蔵文化財センター	学芸主事	船木　義勝
	〃	榮　一郎
	〃	高橋　学
	〃	谷地　薫
	文化財主事	高橋　忠彦
	〃	栗沢　光男
	非常勤職員	和泉　昭一
	〃	鎌田　茂

5　事業名・調査対象遺跡・調査期間ほか

事業名	遺跡名（遺跡No.）及び所在地	調査期間	摘要
東北横断自動車道秋田線建設事業（横手市・秋田市間）	下田谷地遺跡（大曲市）	昭和63年４月14日～19日	
	太田遺跡（大曲市）	昭和63年４月20日～22日	
	小出Ⅳ遺跡（南外村）	昭和63年４月14日～27日	
	北田山田ケ沢Ⅰ遺跡（南外村） 北田山田ケ沢Ⅱ遺跡（南外村）	昭和63年８月2日～６日	
一般国道７号大館西バイパス工事	片山館コ遺跡（大館市）	昭和63年11月８～９日	
国道105号改良工事	上岱Ⅰ遺跡（阿仁町）	昭和63年７月25日～29日	
高速交通関連道路整備事業（小坂インター）	はりま館遺跡（小坂町）	昭和63年５月９日～14日 ９月５日～10日	
県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事	五百刈田遺跡（協和町）	昭和63年８月22日～30日	
	和田の台Ⅰ遺跡（協和町） 唐松林館跡（協和町）		調査区内は遺跡と認定できず
県営広域農道整備事業	一ッ森館跡（鹿角市）	昭和63年10月18日～20日	
釈迦内地区農免農道整備事業	諏訪台Ｃ遺跡（大館市）	昭和63年10月６日～７日	
大砂川地区農免農道整備事業	上熊ノ沢遺跡（象潟町）	昭和63年６月７日～11日	
	ヲフキ遺跡（象潟町）	昭和63年12月20日～24日	
	管先遺跡（象潟町）		調査区内は遺跡と認定できず



第１図　遺跡分布・遺跡範囲確認調査位置図

第３章　調　査　の　記　録

第１節　遺跡分布調査

今年度の遺跡分布調査は、要項にあるように北秋田郡・鹿角郡内の８箇町村の分布調査と、下記開発事業に伴う分布調査を実施した。町村の分布調査の結果については平成元、２年度に刊行する秋田県遺跡地図（中央版、県北版）に報告することとし、ここでは開発に伴うものだけに限って報告する。

開発に伴う分布調査は下記のとおりである。

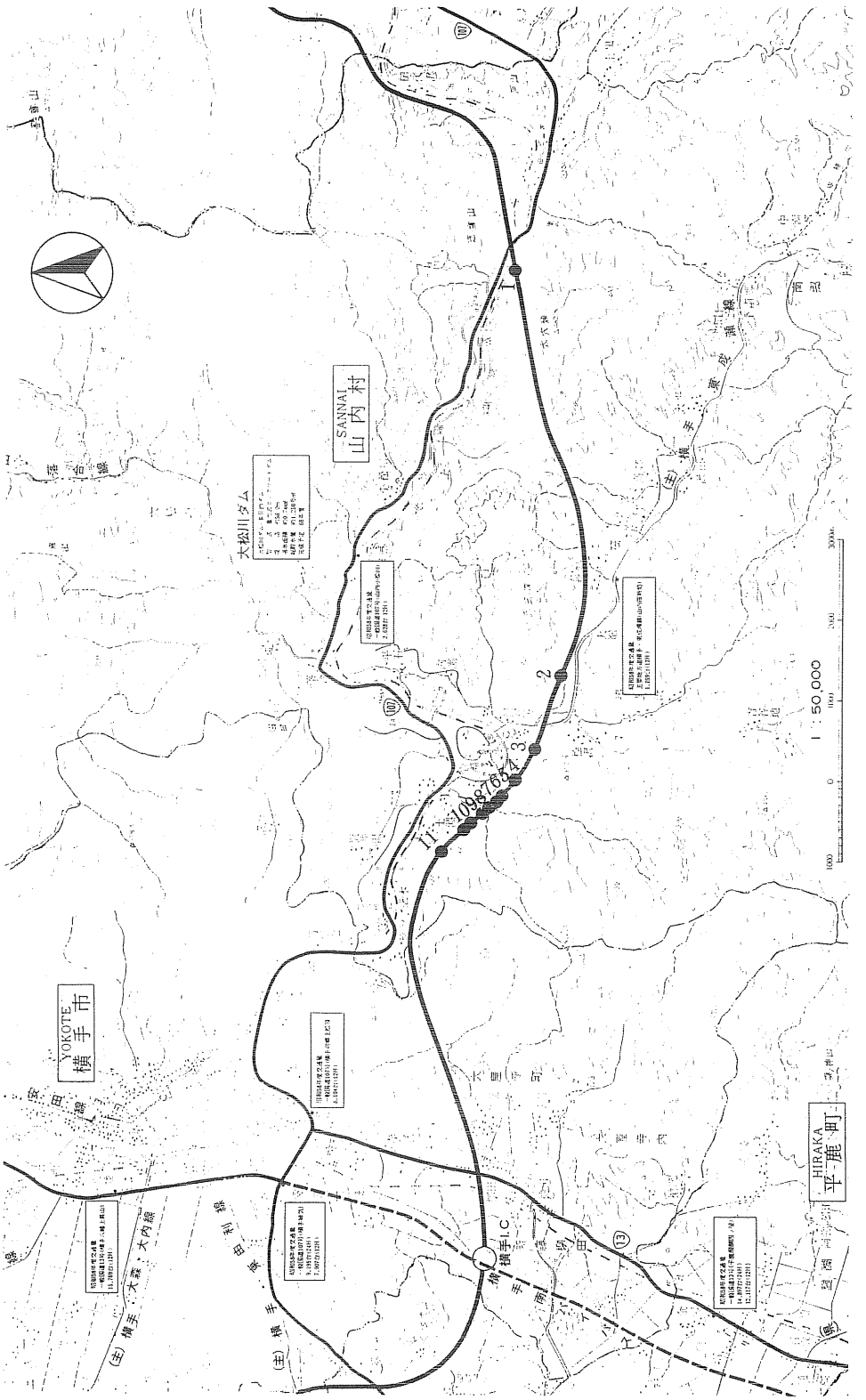
No.	事　業　名	調　査　期　間	調　査　結　果　等
1	東北横断自動車道秋田線建設事業（湯田町・横手市間）	昭和62年５月14日～15日 昭和63年６月27日～28日	山内村地区で11箇所の遺跡が路線上に係ることを確認（別参照）。
2	森吉山ダム関係（森吉町）	昭和63年10月18日～20日	狐岱遺跡外３箇所の遺跡を確認。
3	県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事（協和町）	昭和63年４月15日 昭和63年６月15日	周知の遺跡３箇所、新発見遺跡２箇所路線上に係ることを確認。
4	大砂川地区農免農道整備事業（象潟町大砂川～大須郷間）	昭和63年８月５日	周知の遺跡２箇所、新発見遺跡１箇所路線上に係ることを確認。

１　東北横断自動車道秋田線建設事業（湯田町・横手市間）

調査の結果下記の遺跡が路線上に係ることが判明。なお横手市域で遺跡か否かはっきりしない場所があり、今後さらに調査する必要がある。

東北横断自動車道秋田線（山内村）の遺跡一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代　等	現　況
1	越上（こしのうえ）	平鹿町山内村黒沢字越上68外	縄文中・後期	山　林
2	上谷地（うわやち）	〃　〃　平野沢字上谷地117外	〃　後期	〃
3	相野々（あいのの）	〃　〃　〃　字相野々22－２外	〃　晩期	畑　地
4	中島（なかじま）	〃　〃　土渕字中島21－１外	〃　〃	〃
5	岩瀬（いわせ）	〃　〃　〃　字岩瀬144－１外	〃　〃	〃
6	虫内Ⅰ（むしない）	〃　〃　〃　字虫内75外	縄　文	樹　園
7	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃　17－１外	〃	山　林
8	小田Ⅰ（こだ）	〃　〃　〃　字小田108－２	〃	〃
9	〃　Ⅱ	〃　〃　〃　〃　111－１～10 〃　〃　〃　〃　111－28外	〃	山林・畑地
10	〃　Ⅲ	〃　〃　〃　〃　111－８	旧石器	山　林
11	茂竹沢（しげたけざわ）	〃　〃　〃　字茂竹沢12外	縄　文	〃

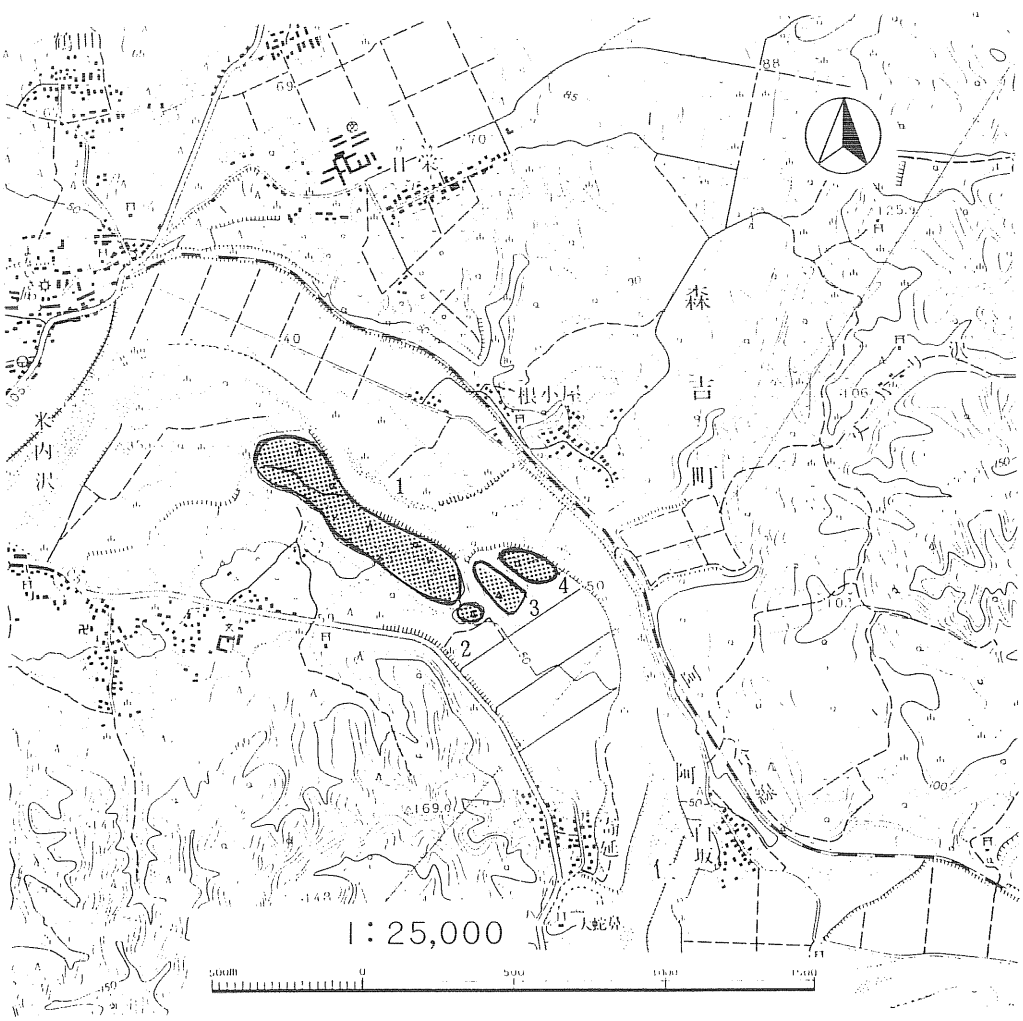


第２図　東北横断自動車道秋田線建設事業内遺跡位置図

2　森吉山ダム関係（森吉町）

森吉町狐岱を中心にした所に森吉山ダム建設に伴って水没する水田の代替地として農地造成しようと計画された。その面積は約19 haである。その範囲を坪掘り等を実施して遺跡の有無を確認した。その結果下記のとおりである。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　　代	現　況
1	狐岱（きつねだい）遺　跡	北秋田郡森吉町狐岱	縄文時代中期～後期集落跡	山林・原野
2	山崎（やまざき）　〃	〃　〃　山崎	平安時代の集落跡	山　　林
3	吉野Ⅰ　〃	〃　〃　吉野	縄文時代後期？破壊されている	原　　野
4	吉野Ⅱ　〃	〃　〃　吉野	縄文時代前期の集落跡	山林・原野

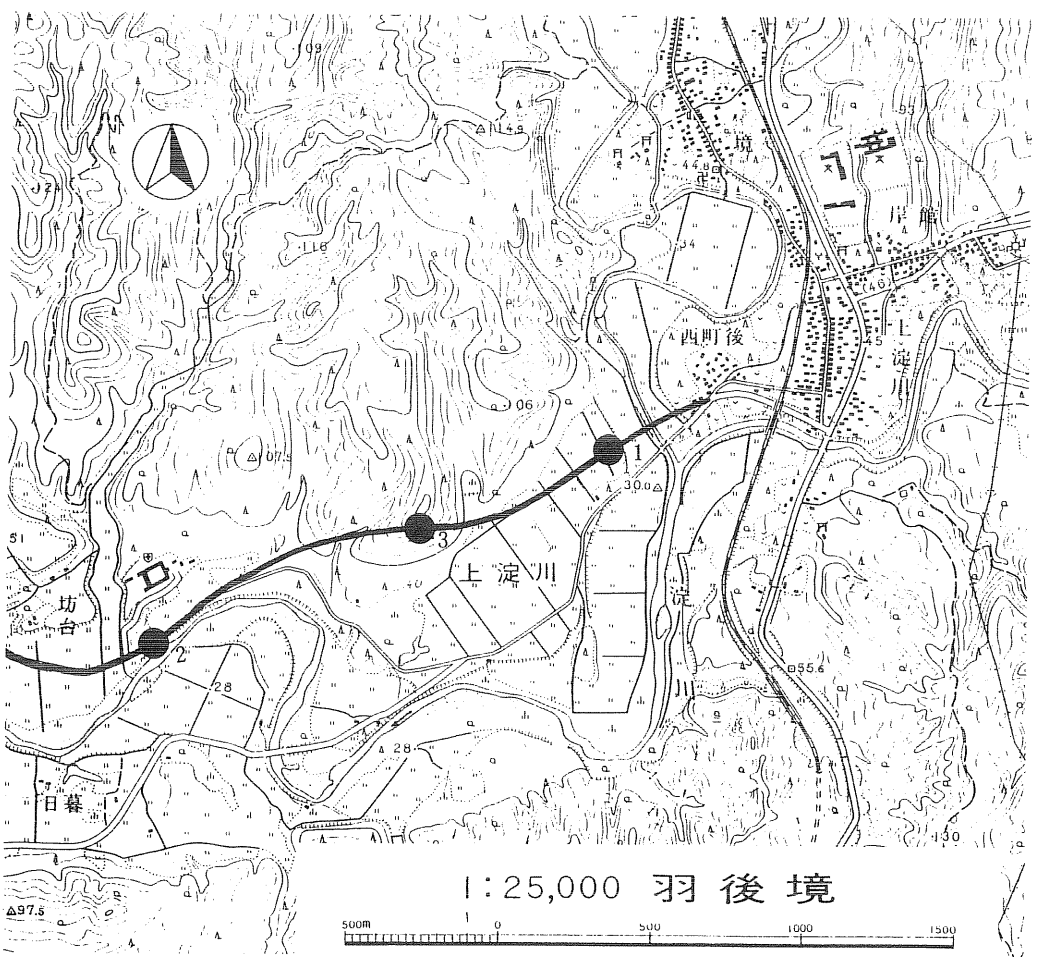


第3図　森吉山ダム関係内遺跡位置図

3　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路整備工事（協和町）

協和町上淀川地区の上記路線の工事に係る延長約2㎞のところを分布調査を実施した。その結果周知の遺跡3箇所、新発見の遺跡2箇所を確認した。そのうち周知の遺跡の唐松林館跡は路線にかからないことが判明。また新発見遺跡のうち1箇所は試掘の結果発掘調査の必要なしと判断されたのでここではそれらの遺跡については除外した。

No.	遺跡名	所在地	時代等	現況
1	和田の台Ⅰ	仙北郡協和町上淀川字和田	縄文時代中期、ほ場整備済み	水田
2	五百刈田	仙北郡協和町上淀川字五百刈田	縄文時代中期、　〃	水田・道路
3	和田	仙北郡協和町上淀川字和田149	弥生時代後期（天王山式）	山林

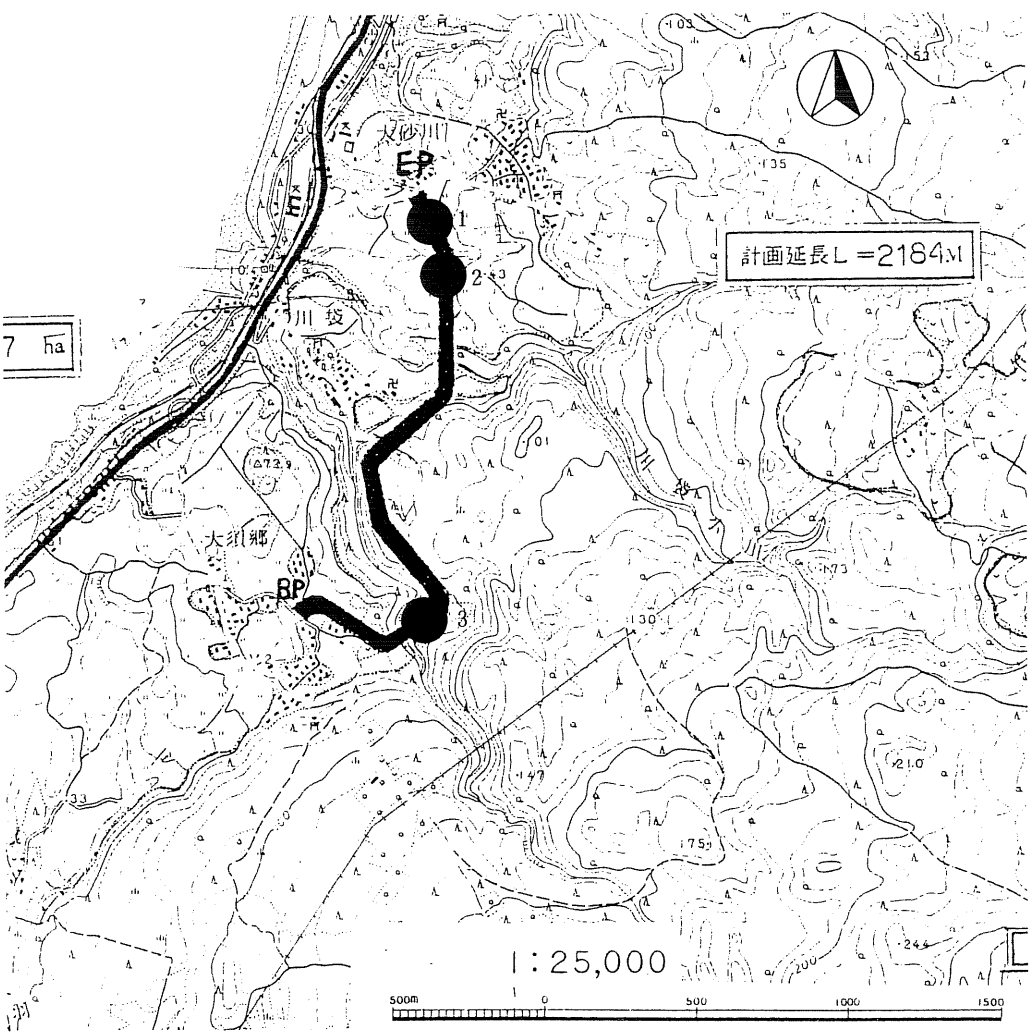


第4図　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事内遺跡位置図

4　大砂川地区農免農道整備事業（象潟町大砂川～大須郷間）

この路線は象潟町大砂川から大須郷までの延長2,184 m幅6 mの計画路線で、その間の分布調査を実施した。その結果、周知の遺跡2箇所、新発見の遺跡1箇所が路線上にかかることが判明した。その後範囲確認調査の結果、菅先遺跡は路線からはずれていることがわかった。

No.	遺跡名	所在地	時代等	現況
1	菅先	由利郡象潟町大砂川字菅先	縄文時代中期・後期	水田
2	ヲフキ	由利郡象潟町大砂川字ヲフキ27外	縄文時代前期・後期	水田
3	上能ノ沢	由利郡象潟町大須郷字上能ノ沢3外	縄文時代後期・弥生時代	山林



第5図　大砂川地区農免農道整備事業内遺跡位置図

第２節　遺跡範囲確認調査

１　東北横断自動車道秋田線建設事業

下田谷地遺跡

１　所在地　　大曲市内小友字下田谷地 144 外

２　工事区域内遺跡面積　　3,600 ㎡

３　調査期間　　昭和 63 年 4 月 14 日～ 19 日

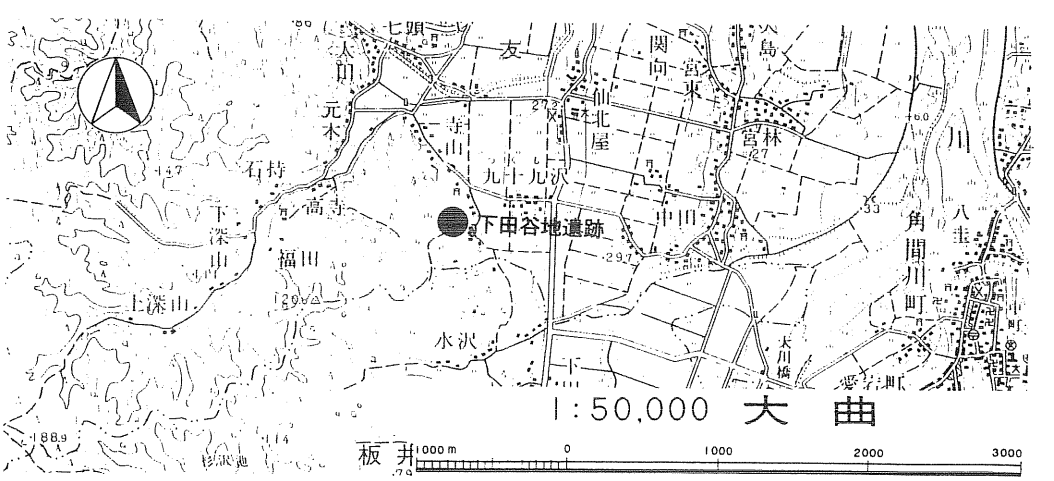
４　調査担当者　　谷地　薫、和泉昭一

５　遺跡の立地と現況

本遺跡は、西から東へ張り出す標高約 45 ｍの馬の背状の小丘陵上にある。丘陵の斜面に遺物包含層がある。現況は畑地及び原野である。

６　範囲・時代・性格

調査の結果、縄文時代晩期の土器破片、フレーク、須恵器破片が出土し、土坑５基、ピット３基が小丘陵上から検出された。この小丘陵とは沢をはさんだ南東側の下田遺跡では、昨年度の発掘調査で縄文時代晩期の土坑群と平安時代の集落跡が検出されており、本遺跡にも縄文時代晩期の土坑群と平安時代の遺構が存在することが予想される。



第６図　下田谷地遺跡位置図

下田谷地遺跡　遠景　（東▶西）

下田谷地遺跡　出土遺物　（縄文土器・石器・須恵器）

太田遺跡

1　所在地　　大曲市内小友字中伊岡4地

2　工事区域内遺跡面積　　700 ㎡

3　調査期間　　昭和63年4月20日～22日

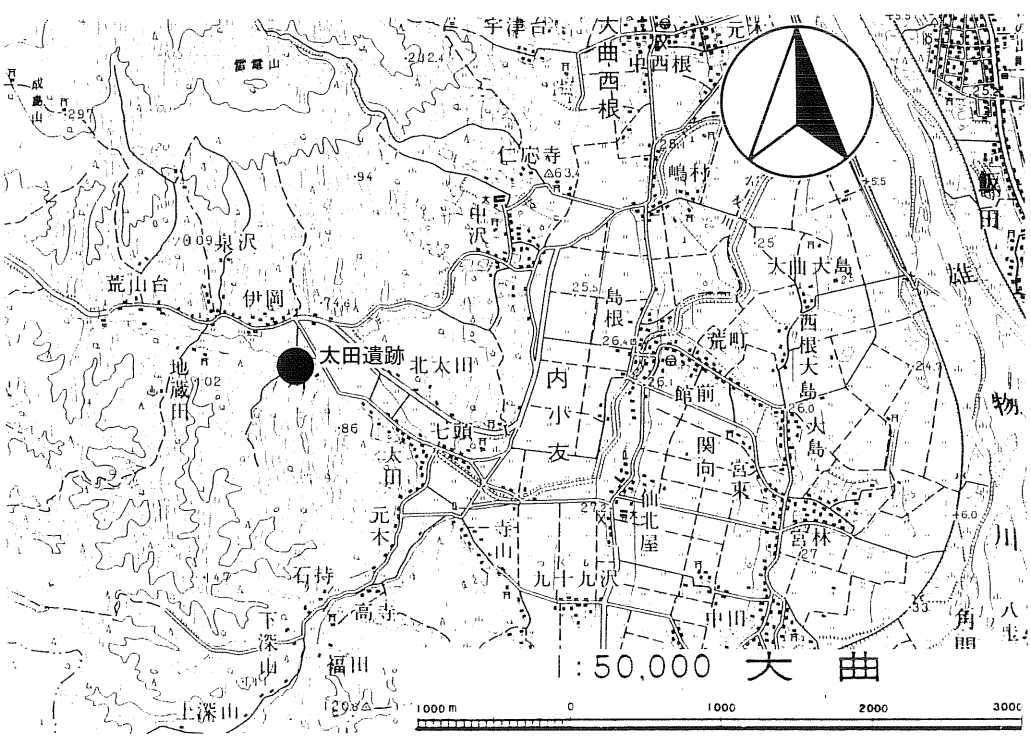
4　調査担当者　　谷地　薫、和泉昭一

5　遺跡の立地と現況

本遺跡は、雄物川の支流小友川によって開析された標高32 m～35 mの低地にある。原地形は小友川の開析によって至るところに微高地が形成されていたようだが、現況は平坦な水田で、その中を小友川が蛇行している。

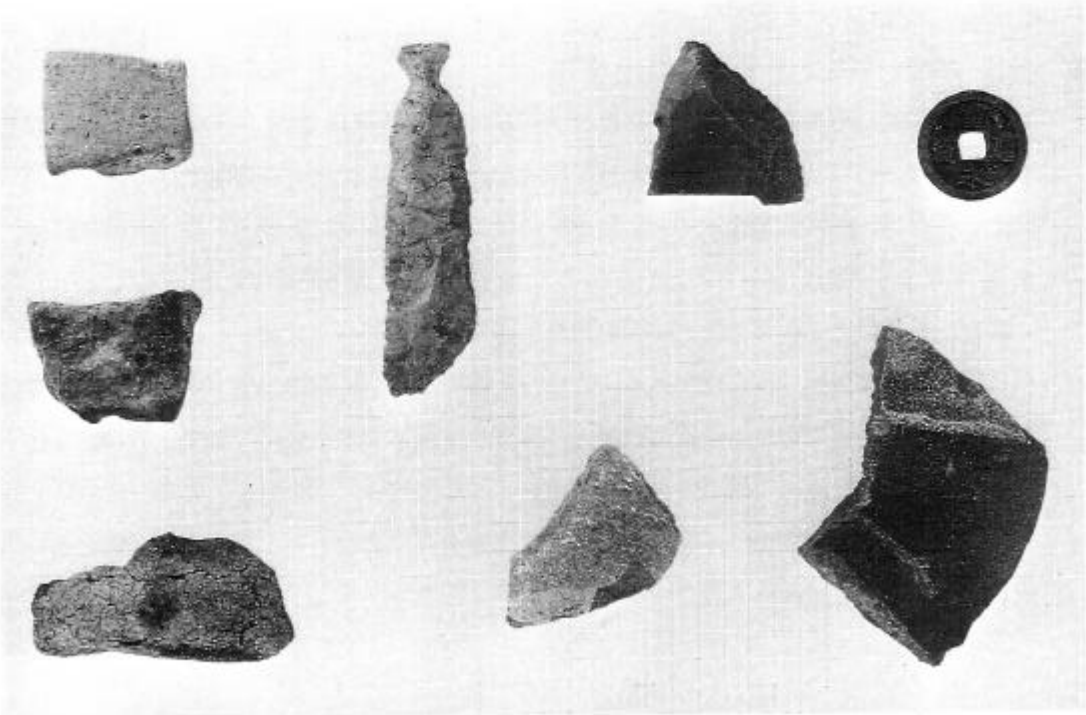
6　範囲・時代・性格

調査の結果、縄文時代前期の土器破片、石匙、フレーク、陶器破片（唐津）、寛永通宝が出土した。遺物包含層が認められたのは原地形の微高地が残存している部分で、工事計画区域内では小友川の北側の一部である。他は既に地山まで削平されていた。



第7図　太田遺跡位置図

太田遺跡　近景　（西▶東）



太田遺跡　出土遺物　（縄文土器・石器・陶器・古銭）

小出Ⅳ遺跡

1　**所在地**　　秋田県仙北郡南外村字小出 467 ― 7 外

2　**工事区域内遺跡面積**　　2,700 ㎡

3　**調査期間**　　昭和 63 年 4 月 14 日～ 4 月 27 日

4　**調査担当者**　　栗澤光男、鎌田　茂

5　**遺跡の立地と現況**

本遺跡は出羽山地に連なる土大森山（標高 261.2 m）と権現山の西裾、雄物川の支流楢岡川右岸の河岸段丘上に位置している。遺跡がある河岸段丘は、楢岡川によって 3 段の段丘面が形成されており、その東側と西側を、楢岡川にそそぐ小河川に開析・侵食されて、ほぼ北方向へ張り出した舌状地形を呈している。そして、標高 55 ～ 60 m の高位段丘面には小出Ⅰ・Ⅱ遺跡、標高 40 ～ 45 m の中位段丘面には小出Ⅲ遺跡、舌状地形を成す段丘の先端部である標高 32 m前後の低位段丘面には本遺跡が立地している。

遺跡の現況は主に宅地・畑地となっている。その西側は、直下の水田面に向かって急斜面となっており、東側は杉および雑木林、南側は国道 13 号と国道 105 号を結ぶ県道 30 号（主要地方道―神岡・坂部・横渡線）が、遺跡に沿ってほぼ北東―南西に走っている。

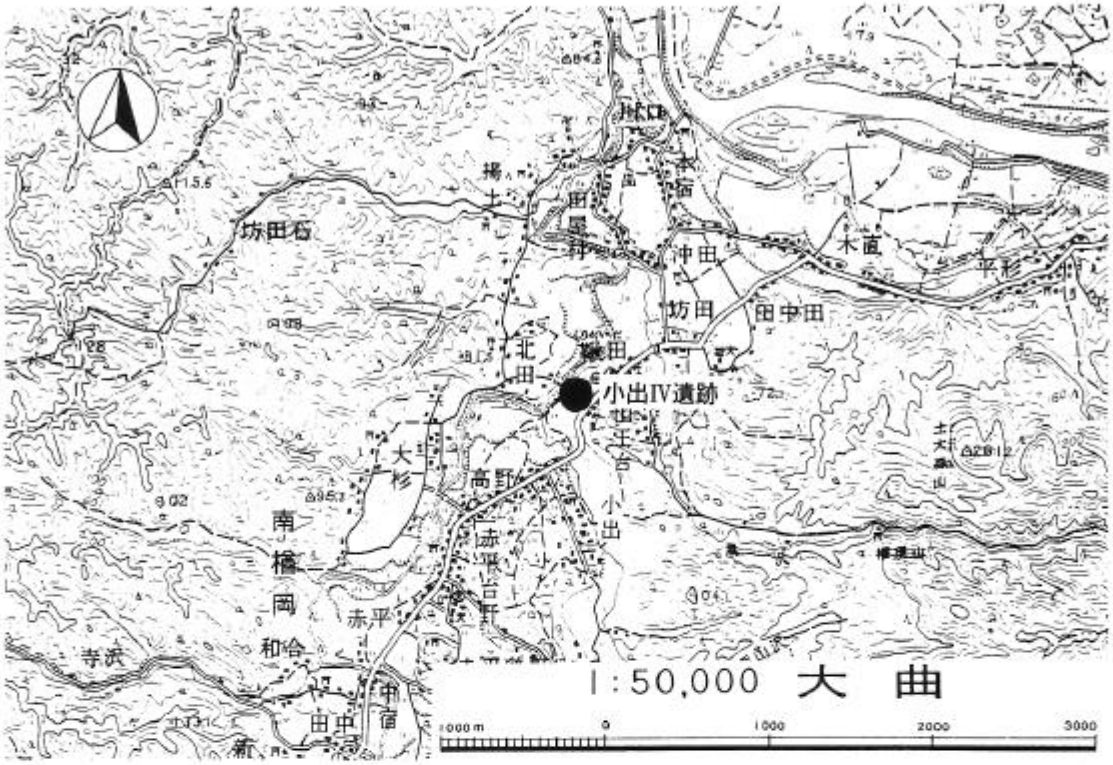
なお、遺跡は過去に宅地・畑地とするための造成工事や、火災で家屋を消失した際の造成工事が行なわれたところである。

6　**範囲・時代・性格**

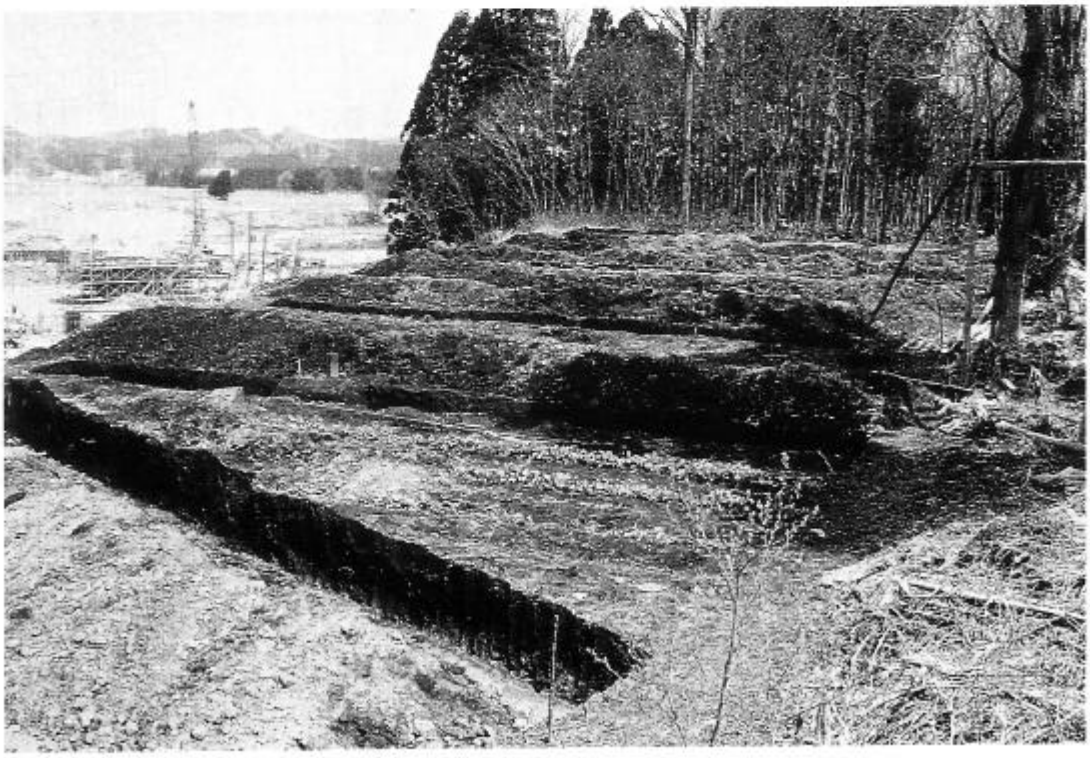
工事区域内の範囲確認調査は、県道 30 号の南側調査地区に 24 本のトレンチ、北側調査地区に 10 本のトレンチを計 34 本入れて行った。その結果、北側調査区では遺構と遺物が検出されたが、南側調査区では全く検出されなかった。従って工事区域内の遺跡範囲は、県道 30 号の北側路肩部から段丘西端部までの宅地および畑地部分である。

調査による出土遺物は、縄文時代中期の土器や石器・フレークなどと、旧石器時代のものと思われる縦長剝片が 1 点である。これらの遺物は、主に遺跡北側の畑地部分の第Ⅰ層表土中から出土しており、遺構も同部分から土坑 1 基が検出された。この土坑は第Ⅱ層明黄褐色土（地山）上面で確認された遺構で、平面形はほぼ円形を呈している。

以上のことから、本遺跡は縄文時代中期に主体を置く遺跡と考えられるが、旧石器時代の遺跡も存在する可能性を持つ複合遺跡とも考えられる。



第8図　小出Ⅳ遺跡位置図



第9図　小出Ⅳ遺跡　調査状況　（南▶北）

北田山田ケ沢Ⅰ遺跡

1　所在地　　仙北郡南外村字北田山田ケ沢 87 ・ 159 番地

2　工事区域内遺跡面積　　300 ㎡

3　調査期間　　昭和 63 年 8 月 2 日～ 8 月 6 日

4　調査担当者　　高橋忠彦，鎌田　茂

5　遺跡の立地と現況

遺跡のある南外村は、その面積の 80% を出羽山地によって占められ、その間を縫うように流れる楢岡川とその支流沿いに集落が点在する散村である。南外村の北側には、雄物川が東西に流れており、それらによって形成された数段の河岸段丘面を見ることができる。

遺跡は、これら段丘面の中で、最も高い標高 24 m前後の段丘最先端部に立地している。

遺跡の周辺には水田が広がっているが、北側は蛇行を繰り返す楢岡川によって、大きく侵食されており広い氾濫原を呈している。

6　範囲・時代・性格

遺跡を含めた、周辺の段丘面は造成工事によって深く削平を受けており、基本土層は表土の黒褐色土層（層厚 45 ㎝）と、地山であるにぶい黄褐色土層（10 YR 5 ／ 4 ）である。

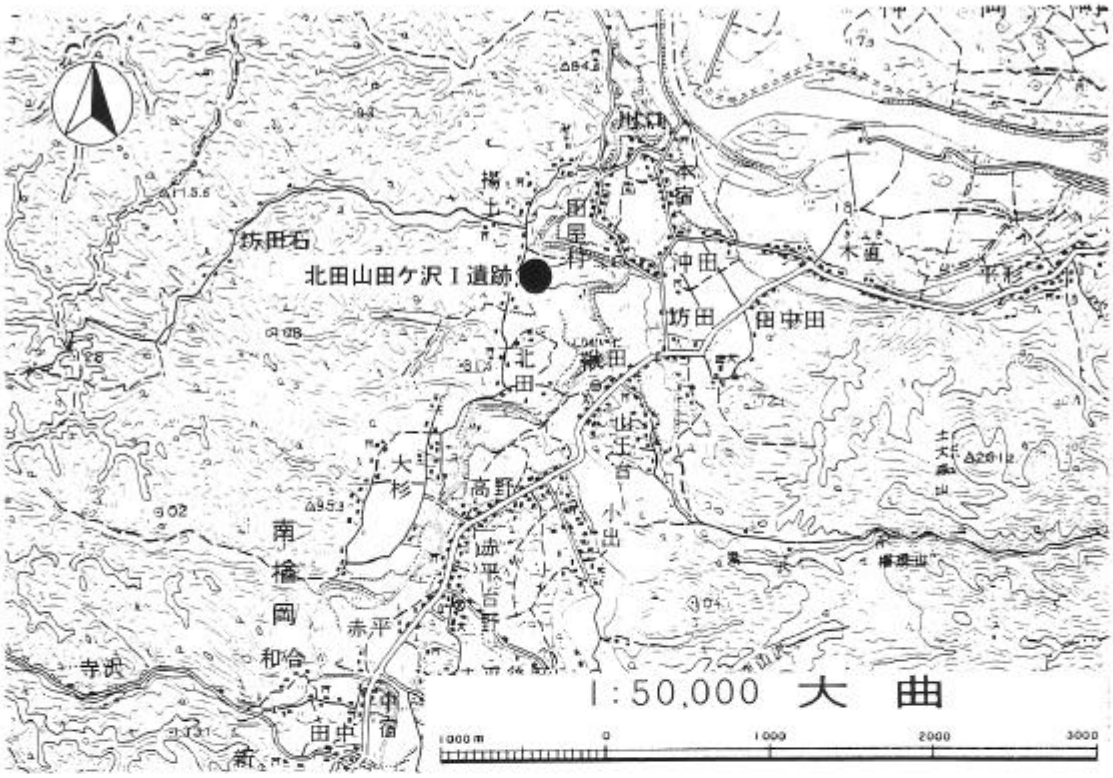
遺構の確認は地山のにぶい黄褐色土層上面でなされるが、遺構の上部は削平を受けている。

出土遺物は、表土と地山の層理面近くで出土しており、縄文時代の土器・石器、平安時代の須恵器がある。

縄文土器は全て細片であり、細かな縄文を施した鉢形土器の破片が多く縄文時代後期～晩期と考えられる。石器には石ベラ状の石器と縦型の石匙及び剝片石器がある。

遺跡は地山のにぶい黄褐色土層上面において、黒褐色土の円形（径 0.8 m前後）の落ち込みを 4 箇所で確認した。その性格は覆土の出土土器から縄文時代晩期の土坑と考えられる。

遺跡の範囲は遺跡のある段丘面全域にわたるものと考えられるが、工事区域内における遺跡の範囲は、段丘面の北東先端部のみに限られる。縄文時代晩期の土坑群と、須恵器の出土から平安時代の遺構の存在が考えられる。



第10図　北田山田ケ沢Ⅰ遺跡位置図

第11図　北田山田ケ沢Ⅰ遺跡　調査状況

北田山田ケ沢Ⅱ遺跡

1　**所在地**　　仙北郡南外村字北田山田ケ沢 268 番地

2　**工事区域内遺跡面積**　　500 ㎡

3　**調査期間**　　昭和 63 年 8 月 2 日～ 8 月 6 日

4　**調査担当者**　　高橋忠彦，鎌田　茂

5　**遺跡の立地と現況**

遺跡は北田山田ケ沢Ⅰ遺跡の北西約 1 ㎞の出羽山地の末端部、標高 30 m～ 33 m の傾斜面に立地している。遺跡の南と東側からは急峻な斜面が迫り、一方の西側は遺跡を最低地とする緩やかな斜面が続いており、また北側も小沢を挟んで急傾斜の斜面が広がっている。従って遺跡地は周辺の低い山地に囲まれた鞍部状の低地を呈している。

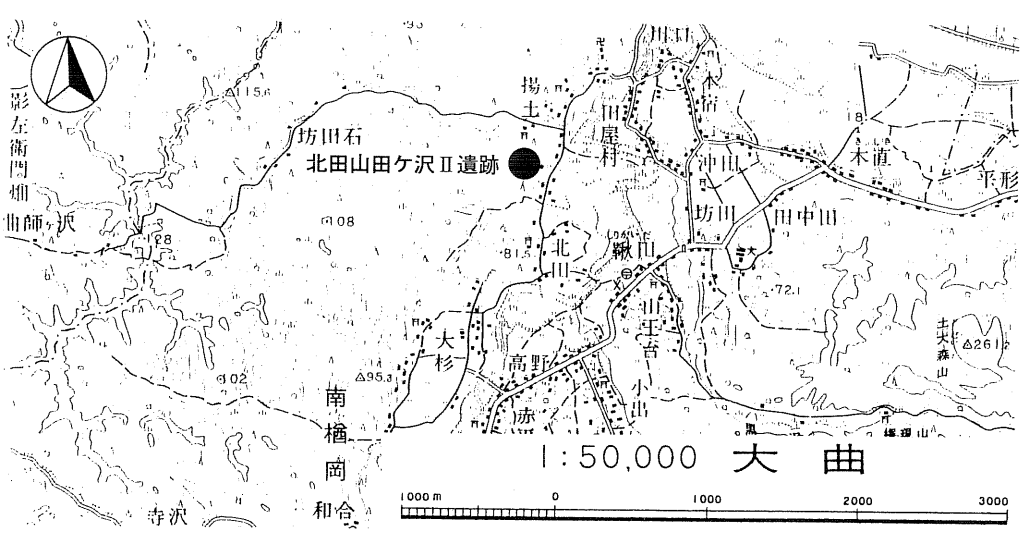
遺跡の現況は、杉の伐採根の残る原野である。

6　**範囲・時代・性格**

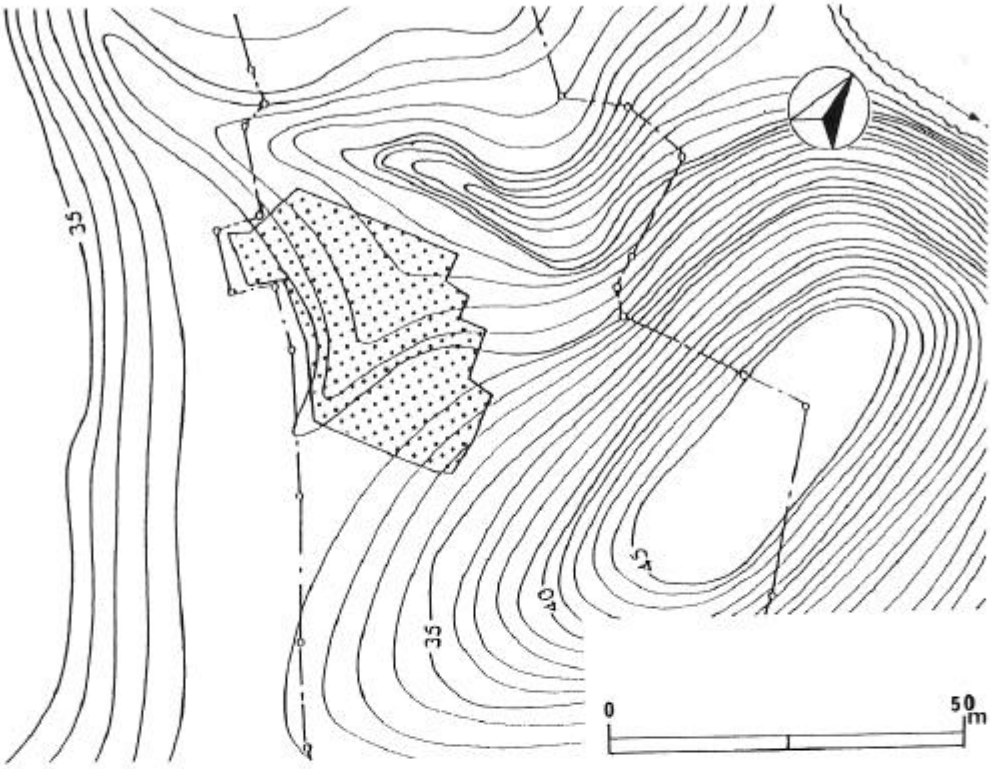
遺跡の基本土層は第Ⅰ層が表土の黒褐色土層（10 YR 2 ／ 3）で、第Ⅱ層褐色土（10 YR 4 ／ 4）第Ⅲ層は地山で礫混じりの黄橙色土層（10 YR 8 ／ 6）である。

遺物は第Ⅱ層から出土しており、特に西側の斜面側からまとまって出土している。縄文時代の土器・石器で、土器には縄文や燃糸文の施された深鉢形土器片などがある。石器は背面にのみ二次調整を行った石ベラ状の石器や、片側縁に調整を加えた剝片石器などがある。

遺構の検出は無かったが、遺跡は出土遺物から縄文時代後期の遺物包含地と考えられ、また遺跡の範囲は西側の斜面末端を中心とする狭い部分に限定される。



第12図　北田山田ケ沢Ⅱ遺跡位置図



第13図　北田山田ケ沢Ⅱ遺跡工事区域内遺跡範囲図

第14図　北田山田ケ沢Ⅱ遺跡　出土遺物（縄文土器）

2　一般国道７号大館西バイパス工事

片山館コ遺跡

1　所在地　　大館市片山三丁目 26 ― 1 外

2　工事区域内遺跡面積　　3,850 ㎡

3　調査期間　　昭和 63 年 11 月 8 日～ 9 日

4　調査担当者　　冨樫泰時

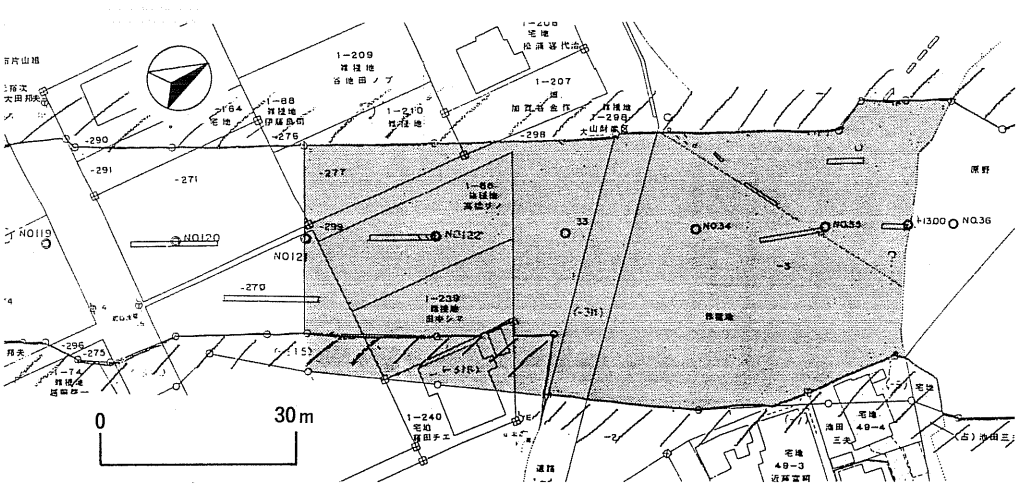
5　遺跡の立地と現況

遺跡は大館市街地の西北部の標高 58 m の台地北端に位置している。台地は南側を流れる米代川、北側を長木川に狭まれて西側に舌状にのびた台地である。大館市街地の中心部はこの台地上に形成されている。館跡は台地の西より北西に張り出した台地を利用して造られている。大館市の調査で北部・南部と呼ばれ、南北部の間に広い空濠がある。南部の南に三重の土塁、空濠がある。遺跡の中心地は公園、道路敷以外は宅地。

6　範囲・時代・性格

今回一般国道７号大館西バイパスは、この館跡の南側を切る形で計画されている。そこでさらに南に遺構がないかどうか確認するため計画路線上をトレンチ６本入れ発掘調査した。その結果、台地北端で土塁、空濠に当った。さらに台地端から南に約 150 m ほど南のトレンチに溝状遺構が確認された。それより南には遺構は確認できず、遺跡の範囲はその付近までと判断した。

地層は台地端で黒土が厚く（80 cm）なるが、他の地域は何回か削平されて表土（20 cm）の下が直ぐ地山である。出土遺物はなし。時代は中世で館跡である。



第15図　片山館コ遺跡工事区域内遺跡範囲図

3　国道105号線改良工事

上岱Ⅰ遺跡

1　所在地　　北秋田郡阿仁町水無字新町46外

2　工事区域内遺跡面積　　2,340 ㎡

3　調査期間　　昭和63年7月25日～29日

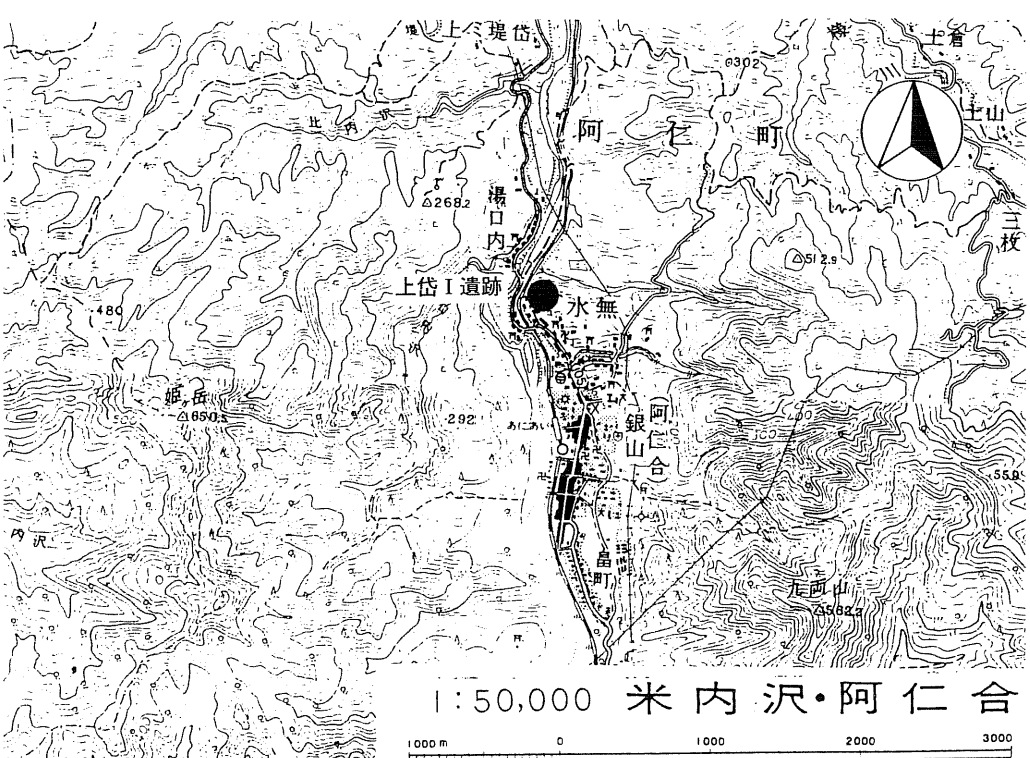
4　調査担当者　　船木義勝

5　遺跡の立地と現況

遺跡は阿仁川右岸の河岸段丘上にあり、南から北に張り出す標高120ｍ前後の舌状台地上に位置する。台地の北側は、阿仁川に面している。現況は山林、畑となっている。

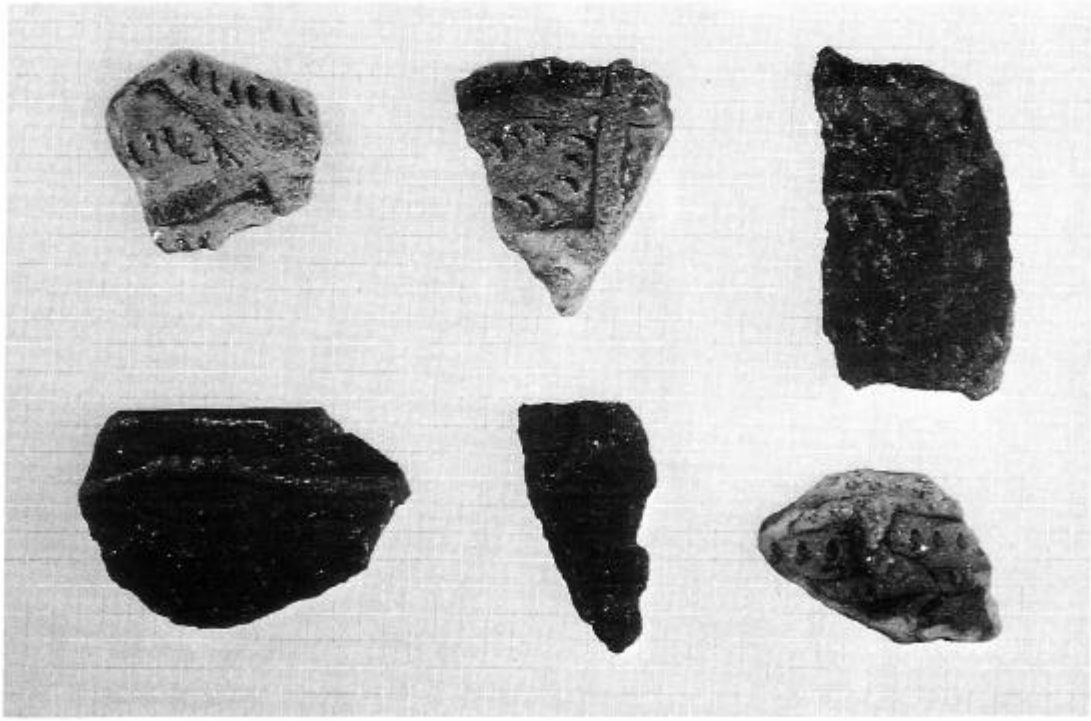
6　範囲・時代・性格

道路拡幅工事範囲内のあめ、範囲内に幅1ｍのトレンチを7本設定した。調査の結果、遺構と遺物包含層を確認したのはA～Eトレンチの範囲であった。出土遺物は縄文時代中期の土器と石器である。検出遺構は竪穴住居跡3軒である。遺物包含層は畑で約20㎝、台地斜面で80㎝である。



第16図　上岱Ⅰ遺跡

上岱Ⅰ遺跡　トレンチ　竪穴住居跡　（東▶西）



上岱Ⅰ遺跡　出土遺物（縄文土器）

4　高速交通関連事業（小坂インター）

はりま館遺跡

1　所在地　　鹿角郡小坂町小坂字下モ上ハ山15外

2　工事区域内遺跡面積　　13,900 ㎡

3　調査期間　　昭和63年5月9日～5月14日、昭和63年9月5日～9月10日

4　調査担当者　　榮一郎、高橋学

5　遺跡の立地と現況

遺跡は鹿角盆地北端、小坂川右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡周辺の地形は大きくは北西から南東に向かって傾斜する舌状台地を呈する。今回の調査は台地西北半部に実施し、従来から遺跡であることが確認されていた台地東南半部の西側にも遺跡が広がることが判明した。今回の確認範囲は台地西北半部の南へ延びる小舌状台地とその両側の開析谷の谷頭の緩斜面である。現状で前者の最高位部の標高は237 m前後、後者の標高は215～232 m前後を測る。

調査時の現況は東半が雑木林、西半が牧草地であった。

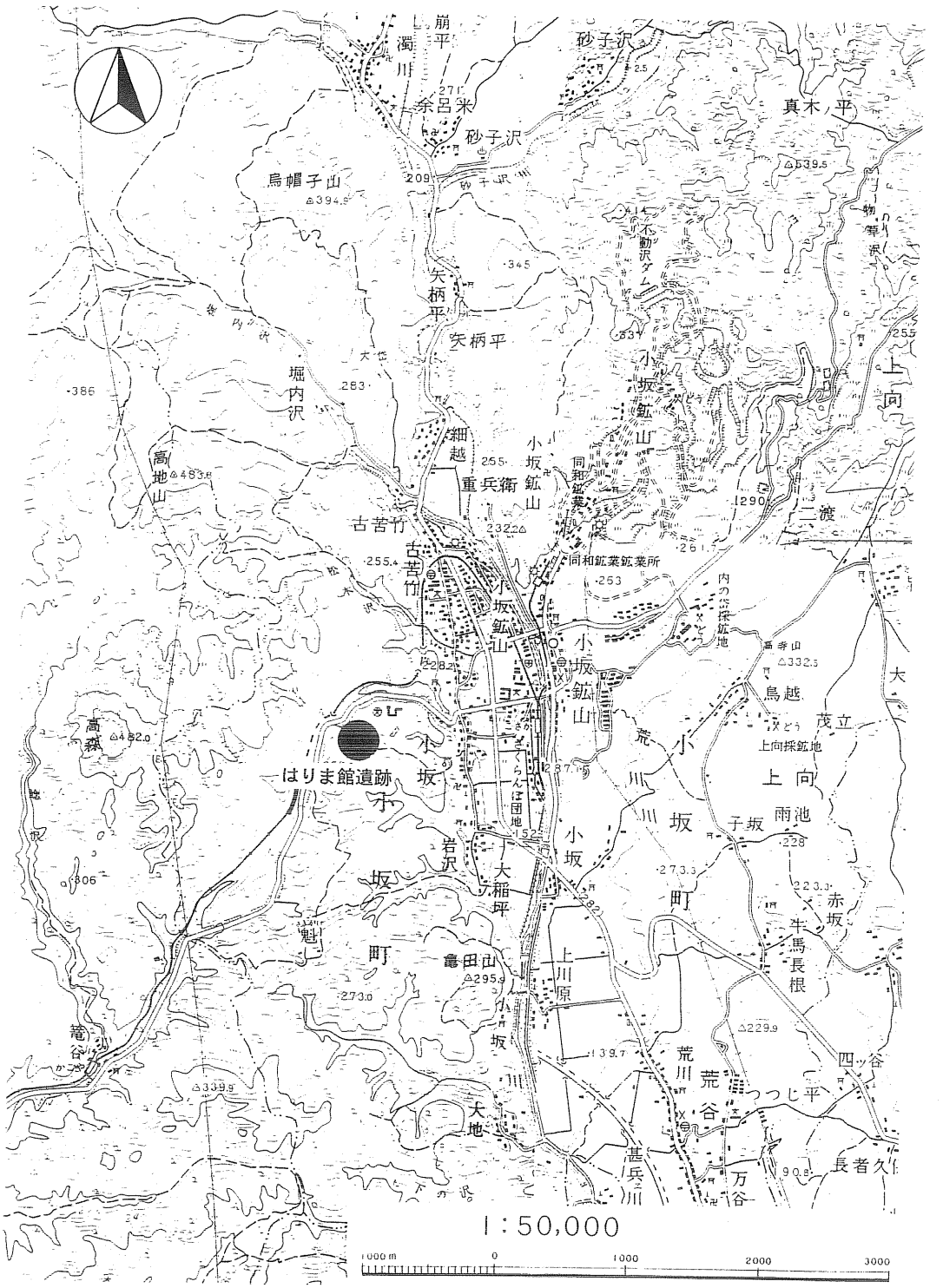
6　範囲・時代・性格

調査は東半と西半とに分けて、前後2回にわたって、合わせて32本の幅1 mのトレンチを設定し、実施した。その結果、大湯浮石上面で古代に属すると思われる竪穴住居跡・土坑各1、大湯浮石直下または地山面で縄文時代もしくは弥生時代の竪穴住居跡1・土坑（柱穴を含む）19・焼土遺構3・集石3を検出した。また、23・25トレンチでは縄文時代後期の遺物が集中しており（第19・21図）、特に後者は台石等が含まれることから考えて、該期の竪穴住居跡である可能性が高い。この他、遺物には縄文時代後期土器以外に縄文時代前期土器、弥生時代後期土器および続縄文土器と石匙、磨石、凹石などがある。

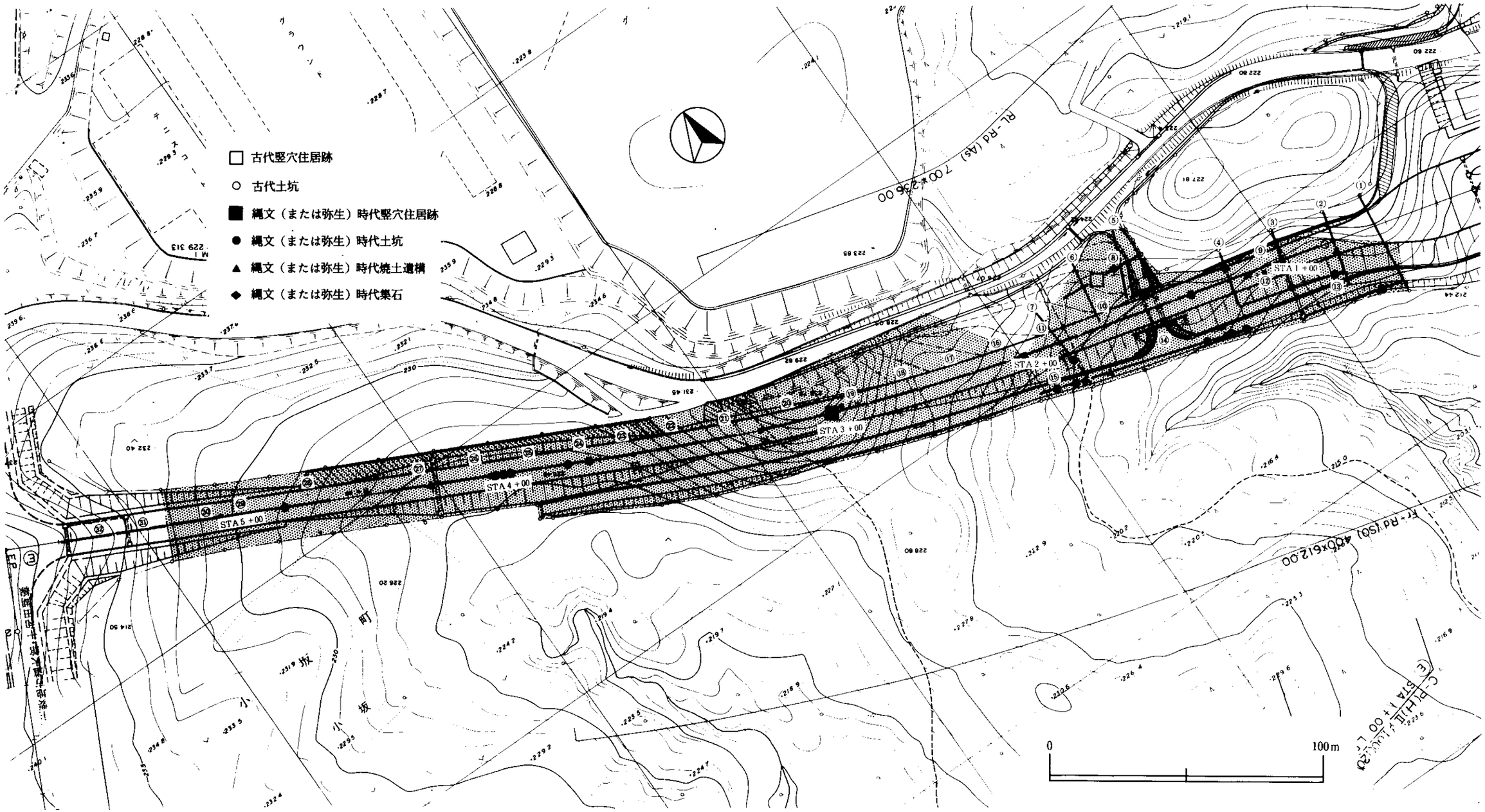
なお、31トレンチ以西は牧草地造成時に地山面まで大きく削平されており、遺構・遺物の検出はなかった。

以上の調査結果から、遺跡は縄文時代前期以降古代まで断続的に占拠されたことが認められる。縄文時代前期および古代における遺跡の在り方は今回の調査からは不明瞭であるが、縄文時代後期および弥生時代後期には遺物等の検出状況から考えて、一定規模の集落が営まれたものと思われる。

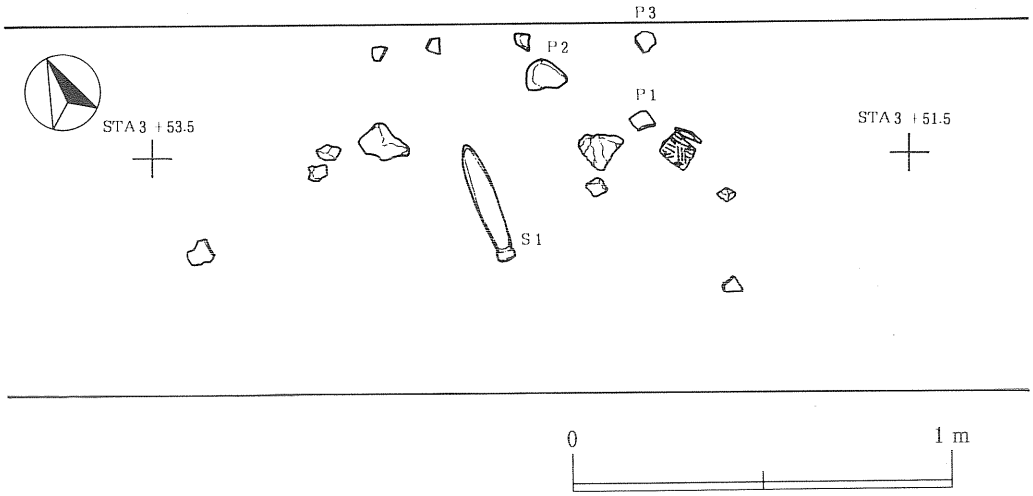
はりま館位置図



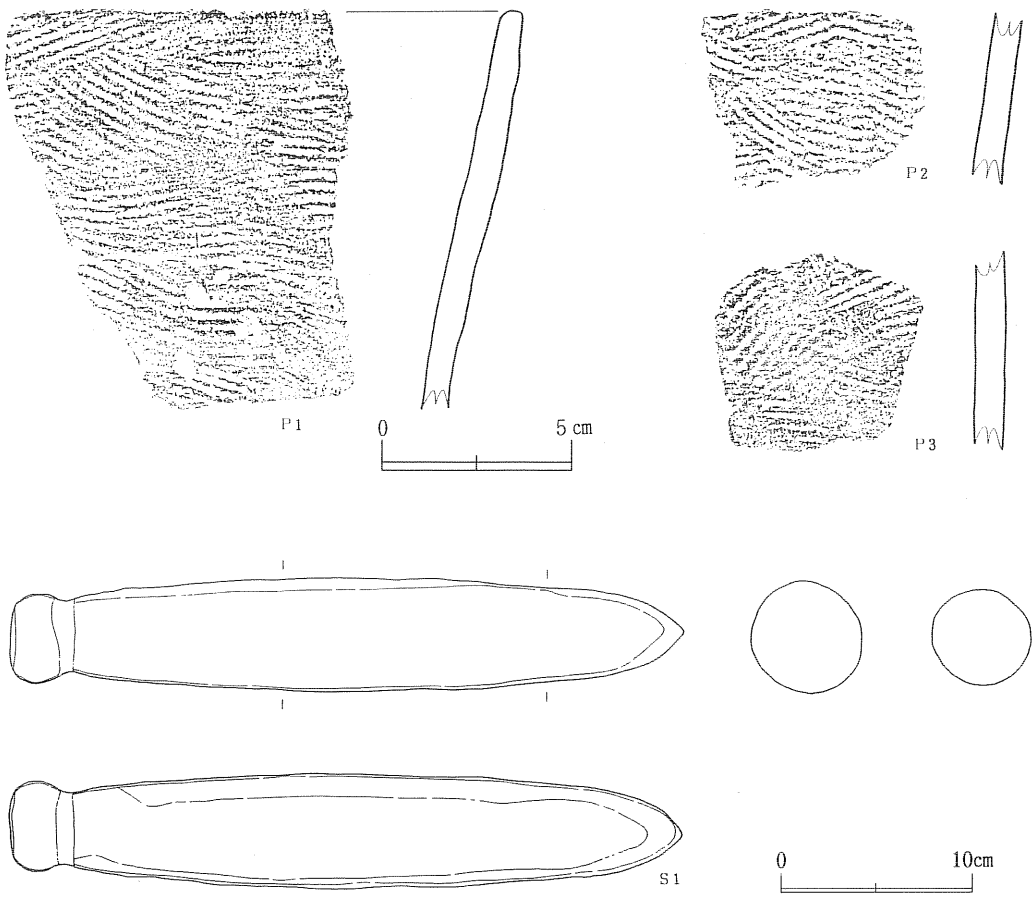
第17図　はりま館遺跡位置図



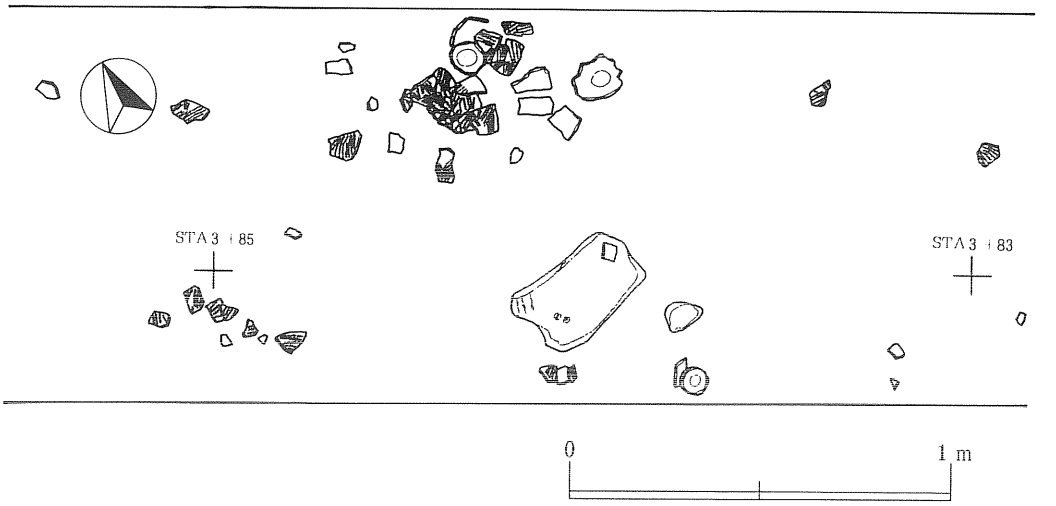
第18図　はりま館遺跡工事区域内遺跡範囲図（①～㉜はトレンチ番号）



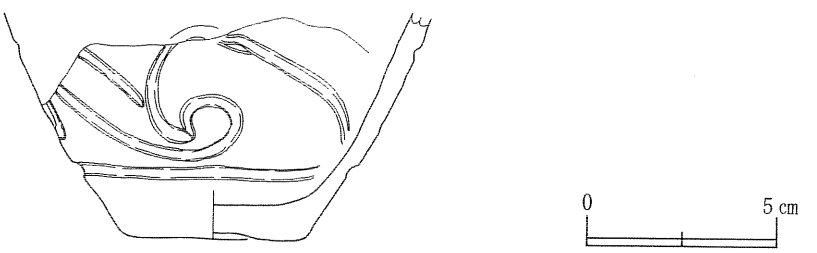
第19図　㉓トレンチ遺物検出状況



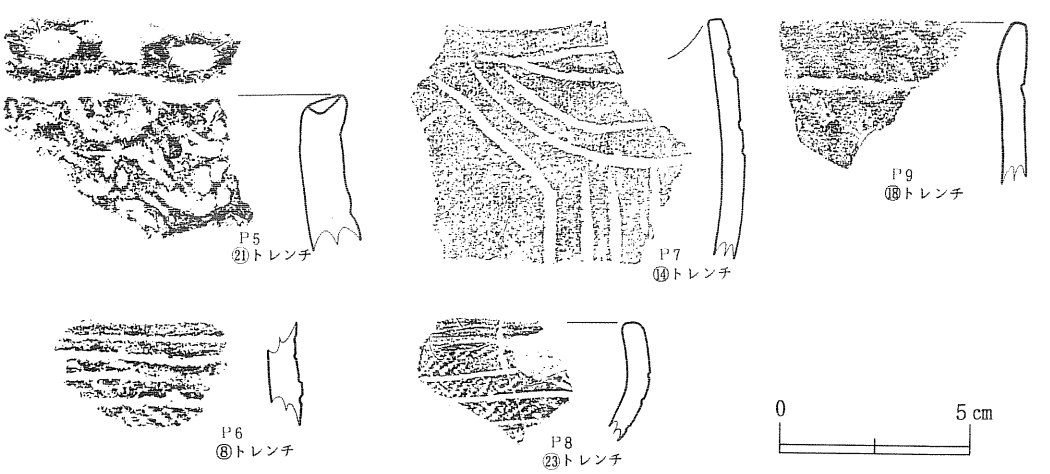
第20図　㉓トレンチ出土遺物



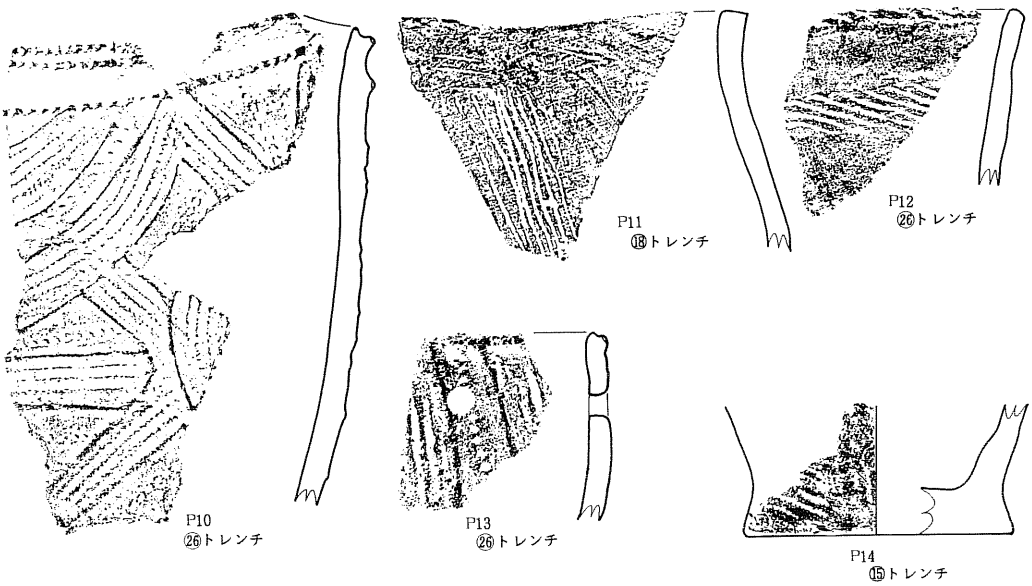
第21図　㉕トレンチ遺物検出状況



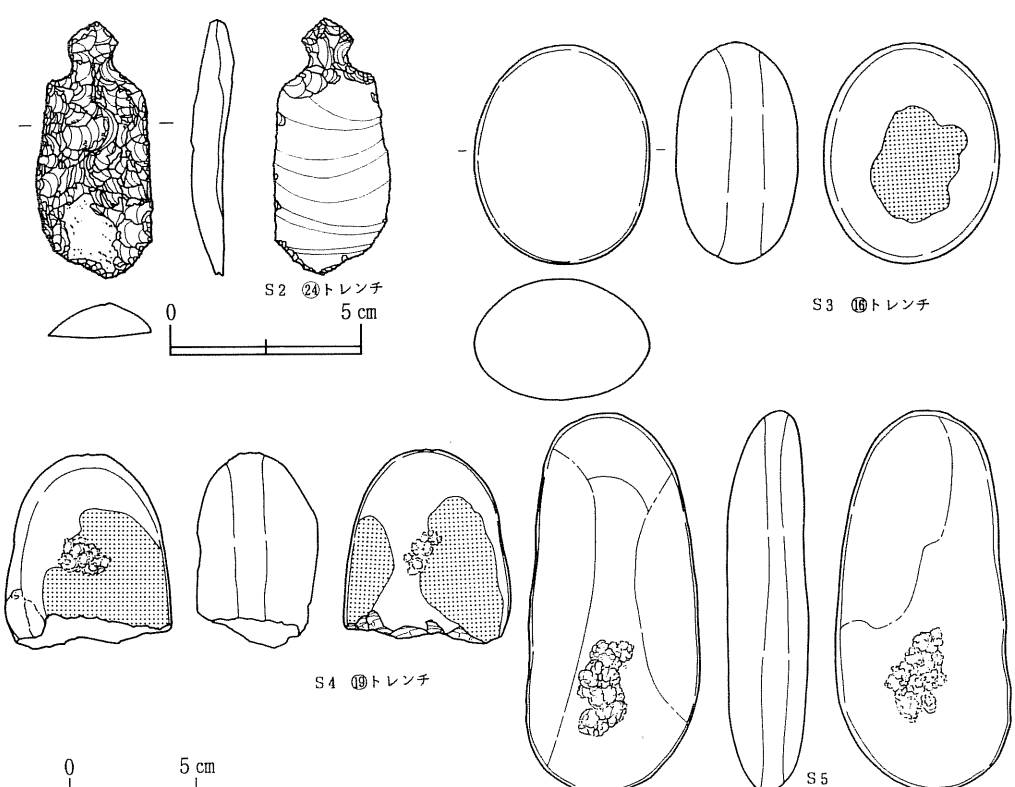
第22図　㉕トレンチ出土土器



第23図　縄文土器

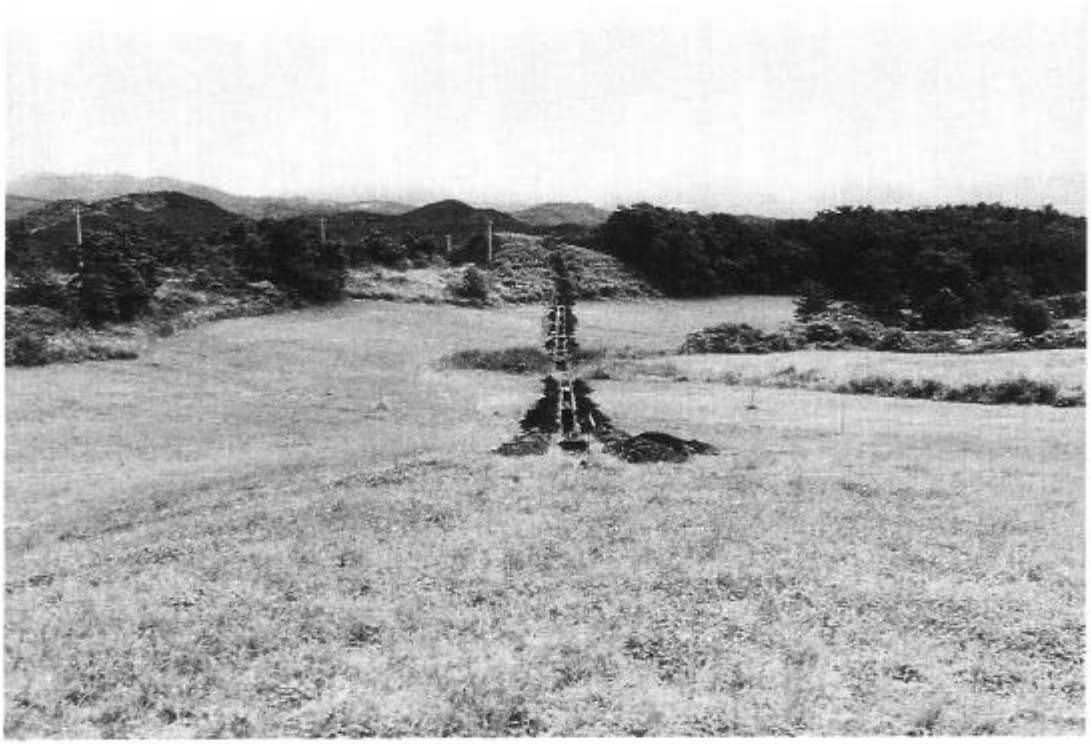


第24図　弥生土器・縄文土器



第25図　出土遺物

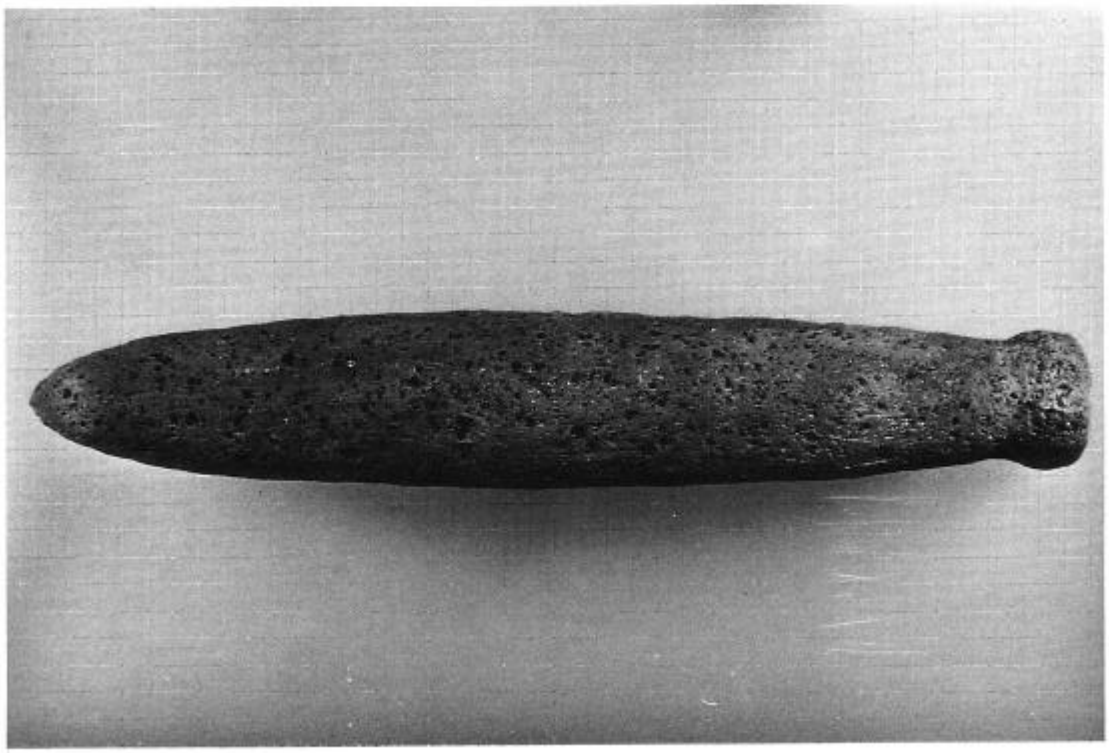
図版4



はりま館遺跡　遠景（西半）　（西▶東）

はりま館遺跡　㉕トレンチ遺物検出状況　（北▶南）

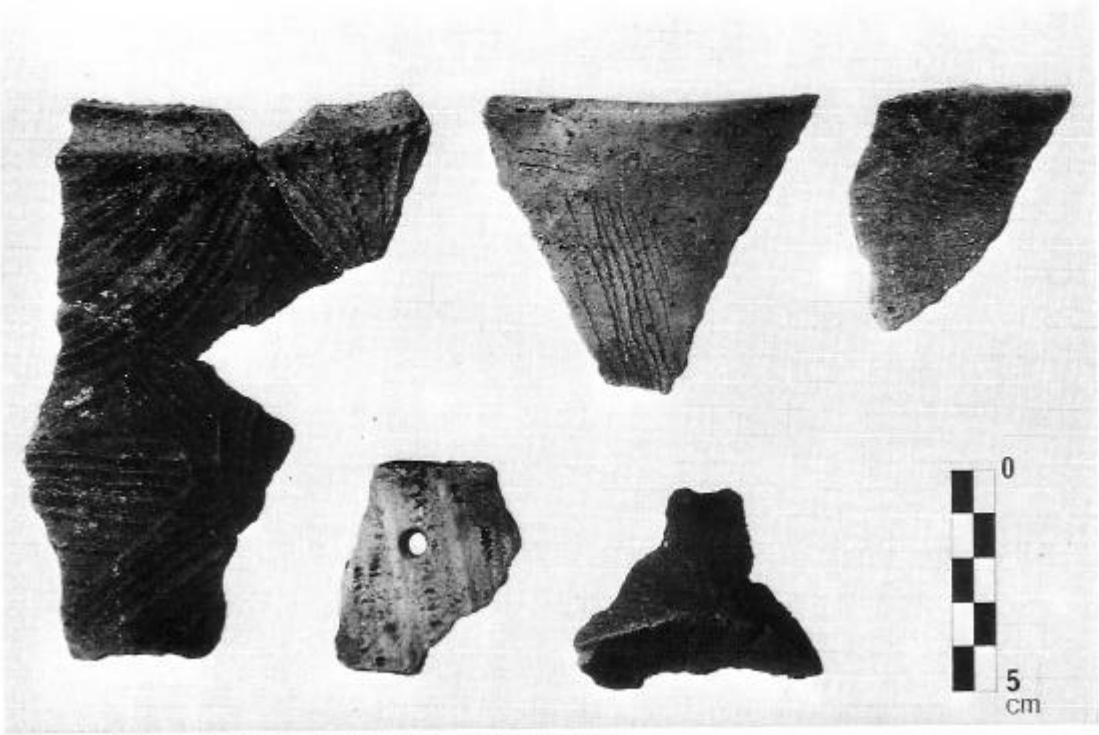
はりま館遺跡　㉓トレンチ遺物検出状況　（北▶南）



はりま館遺跡　㉓トレンチ出土遺物（石器）

図版6

はりま館遺跡　㉓トレンチ出土遺物（縄文土器）



はりま館遺跡　出土遺物（弥生土器・続縄文土器）

5　県道協和・松ケ崎線緊急地方道路工事

五百刈田遺跡

1　所在地　　仙北郡協和町上淀川字五百刈田 31 — 6 外

2　工事区域内遺跡面積　　320 ㎡

3　調査期間　　昭和 63 年 8 月 22 日～ 30 日

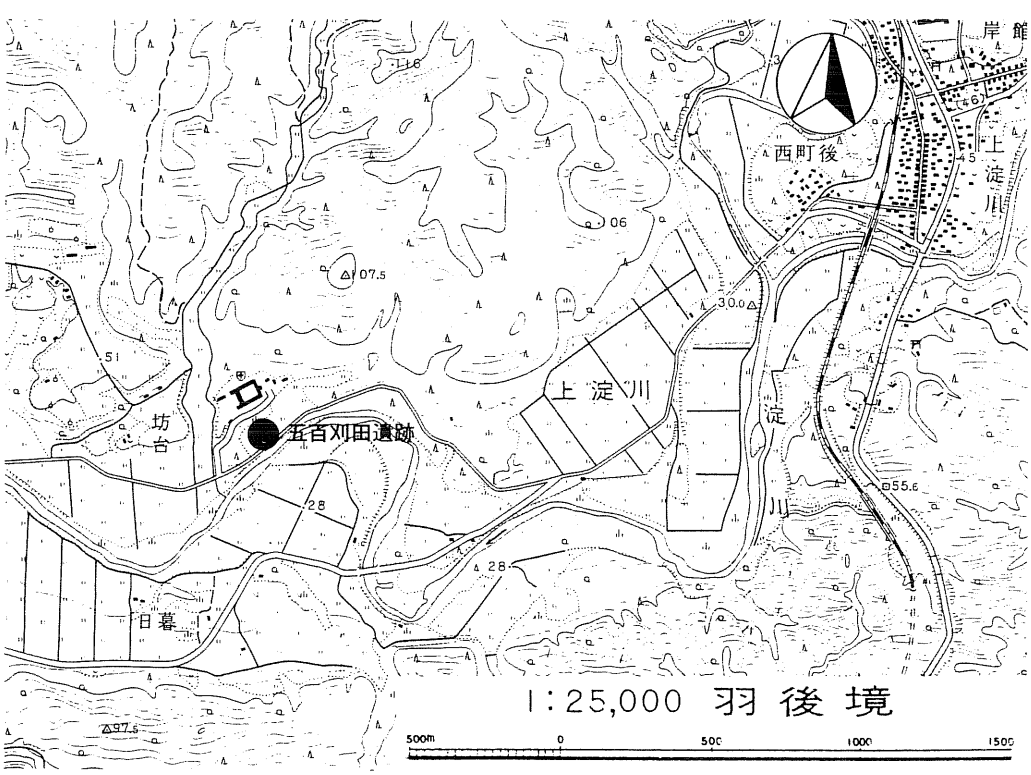
4　調査担当者　　船木義勝

5　遺跡の立地と現況

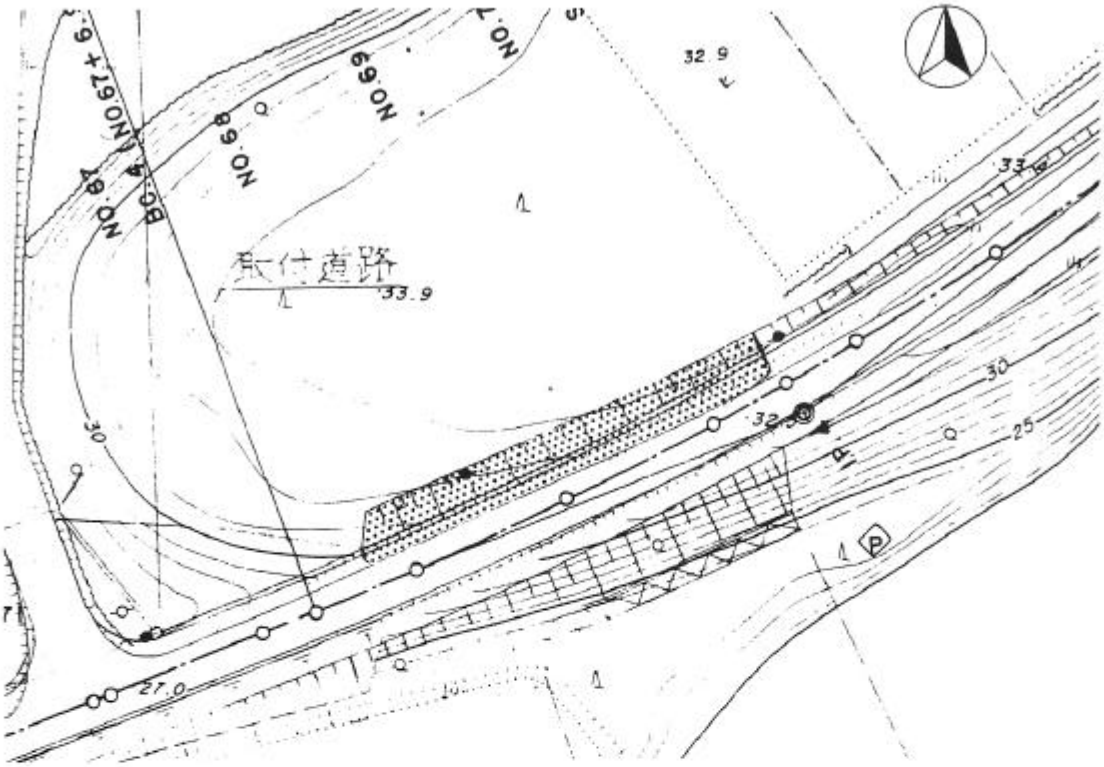
遺跡は協和町と雄和町を結ぶ県道の協和病院入口付近で、北東から南西方向に張り出す標高 30 m ほどの舌状台地上にある。台地の南側は雄物川の支流淀川に面している。現況は山林（杉）である。

6　範囲・時代・性格

遺跡は北東から南西方向に傾斜する最大幅 100 m前後を測る舌状台地上に位置する。調査は道路拡幅工事範囲内であるため、路線に沿って幅 1 m のトレンチを設定した。調査の結果、縄文時代中期の土器、石器と土坑 1 基を検出した。



第26図　五百刈田遺跡位置図



第27図　五百刈田遺跡 工事区域内遺跡範囲図

第28図　五百刈田遺跡　調査状況　（北西▶南東）

6　農業改良工事（農免農道を含む）関連

一ツ森館跡

1　所在地　　鹿角市花輪字一ツ森 26 番地外

2　工事区域内遺跡面積　　800 ㎡

3　調査期間　　昭和 63 年 10 月 18 日～ 10 月 20 日

4　調査担当者　　庄内昭男

5　遺跡の立地と環境

調査地は一ツ森館と称される遺跡の一角であり、米代川の支流である根市川左岸に位置している。一ツ森館のある地形は東西に細長くのびる舌状台地であり、西端から東端まで 800 mの長さがある。台地上面および北側中腹は杉林であり、南側中腹はりんご園として活用されている。

6　範囲・時代・性格

事業は、現在台地西端の北側を横切る農道を拡張整備するように計画された。そこで幅 10 ～ 17 mの路線計画内に任意のトレンチを設けて調査を進めた。各トレンチでは表土層（耕作土）を除去した黄褐色土層で、遺構および遺物の確認に努めた。

＜土層と深さ＞

上面部・1 層黒褐色土（耕作土）　60 ～ 70 ㎝

中腹部西側・1 層黒褐色土（耕作土）　40 ～ 130 ㎝

中腹部東側・1 層黒褐色土（耕作土）　30 ～ 40 ㎝・60 ～ 100 ㎝

中腹部は南から北側に傾斜している。

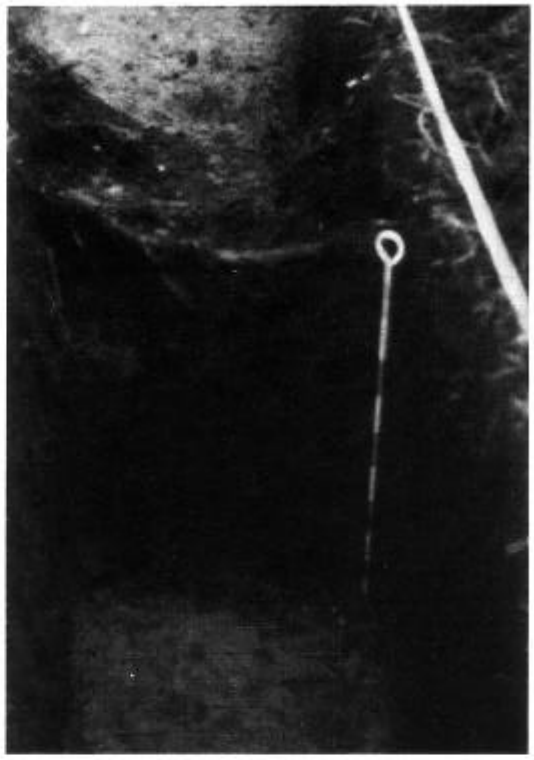
上面で 2 箇所・13 ㎡、下面で 6 箇所・40 ㎡を調査し、その結果を下記にまとめた。

(1)　上面部では縄文時代前期の土器破片が検出された。

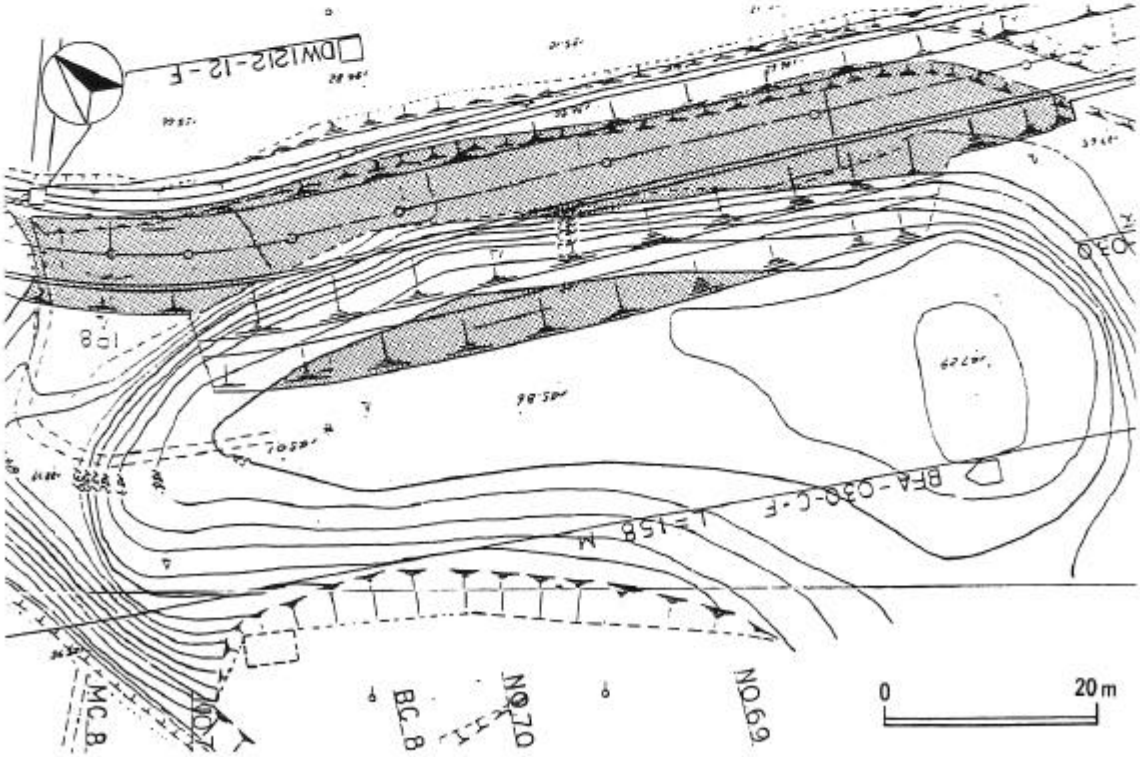
(2)　中腹部では、西側で空堀状の落ち込み、東側で縄文時代後期の土器破片が検出された。

上面部では、縄文時代前期および中世の館跡にかかわる遺構のある可能性、中腹部では中世の館跡にかかわる空堀のめぐる可能性が高い。したがって、上面部、中腹部のあわせて 800 ㎡に遺跡の範囲を設定した。

第29図　一ツ森館跡位置図



第30図　空堀跡



第31図　一ツ森館跡工事区域内遺跡範囲図

諏訪台Ｃ遺跡

1　**所在地**　　大館市大茂内字諏訪台 33 外

2　**工事区域内遺跡面積**　　1,300 ㎡

3　**調査期間**　　昭和 63 年 10 月 6 日～ 7 日

4　**調査担当者**　　冨樫泰時

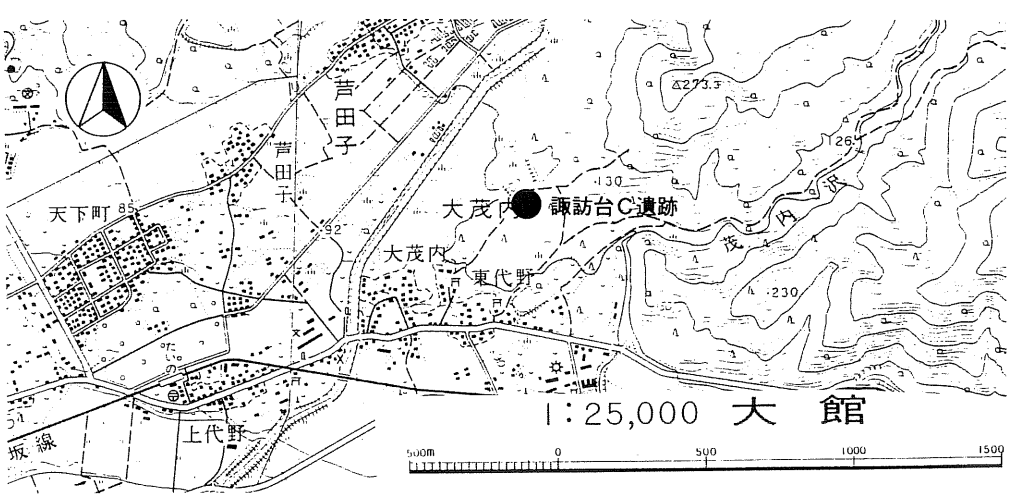
5　**遺跡の立地と現況**

遺跡は大茂内沢と、茂内沢に狭まれた台地上にあり、標高 103 ｍのところにある。道路はこの台地を切って北西に走る。台地の北西側は沼地である。道路敷以外は山林である。

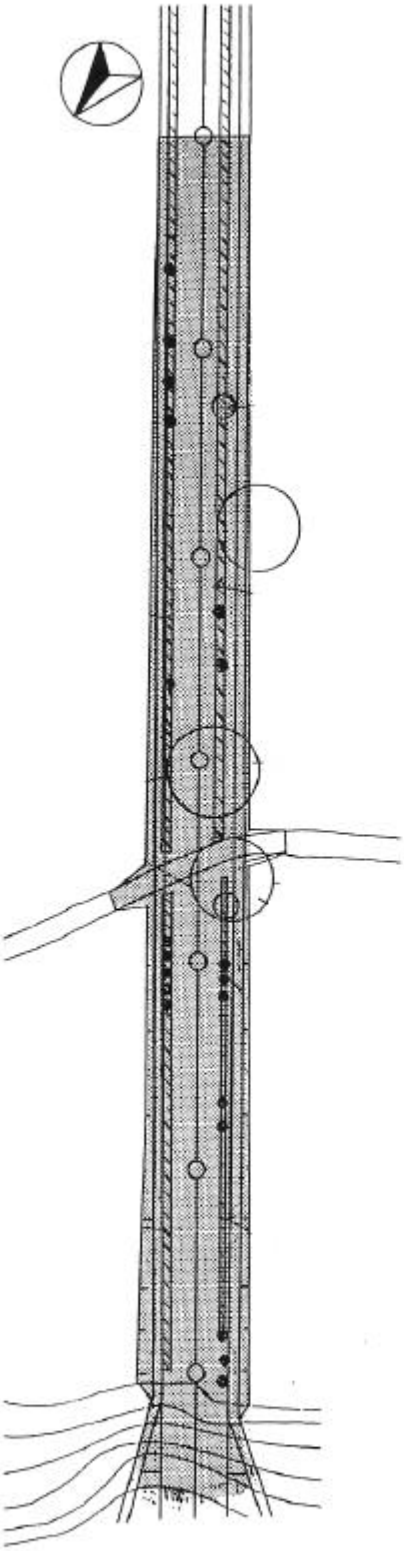
6　**範囲・時代・性格**

道路幅は 20 ｍである。この幅にしたがって 2 本のトレンチ（幅 90 ㎝）を設定して発掘調査を実施した。その結果、遺物・遺構の広がりは北西端からおよそ 130 ｍのところで無くなることがわかった。したがって遺跡は台地の北西側に存在していると判断された。2 列の長いトレンチには土坑が 20 を越すほど、また竪穴住居跡と推測される遺構（溝が円形になるもの）が 3 棟ほど確認された。遺物は縄文時代後期のもの、弥生時代初期のものと 2 時期がある。住居跡は弥生時代初期のものと考えられる。

したがって本遺跡は弥生時代初期の集落跡と考えられる。基本的な層序は表土（黒土）20 ㎝前後、暗褐色土 20 ㎝ほどで地山に達する。

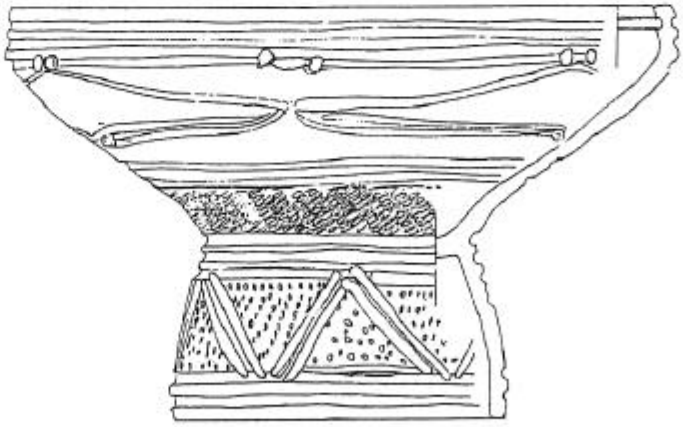


第32図　諏訪台Ｃ遺跡位置図



第33図　諏訪台Ｃ遺跡工事区域内遺跡範囲図

第34図　調査状況



第35図　出土遺物

上熊ノ沢遺跡

1　**所在地**　由利郡象潟町大須郷字上熊ノ沢3番地

2　**工事区域内遺跡面積**　1,800 ㎡

3　**調査期間**　昭和63年6月7日～6月11日

4　**調査担当者**　庄内昭男

5　**遺跡の立地と現況**

遺跡は鳥海山の西麓にあり、海岸から1㎞程入った距離にある。遺跡は標高40～50 mの段丘上にあって、南および西側の真下を海に注ぐ川袋川が流れている。遺跡は現在杉林であるが、以前は水田として開墾されていた。調査区東側に畔の跡が残っていた。

6　**範囲・時代・性格**

事業は、大須郷部落から上熊ノ沢地区を通り大砂川部落にぬける農道を設けるために計画された。そこで遺跡があると考えられる上熊ノ沢地区に計画された幅6～14 mの路線内に、任意のトレンチを設けて調査を進めた。各トレンチでは表土層（耕作土）を除去した明黄褐色土層で、遺構および遺物の確認に努めた。

＜土層と深さ＞

計画杭No.99～96内・1層黒褐色土（耕作土）　20～30 ㎝

計画杭No.89～87内・1層暗褐色土（耕作土）　20～30 ㎝

計画杭No.86～85内・1層暗褐色土（耕作土）　60～80 ㎝

計画杭No.84～82内・1層黒褐色土（耕作土）　30～40 ㎝

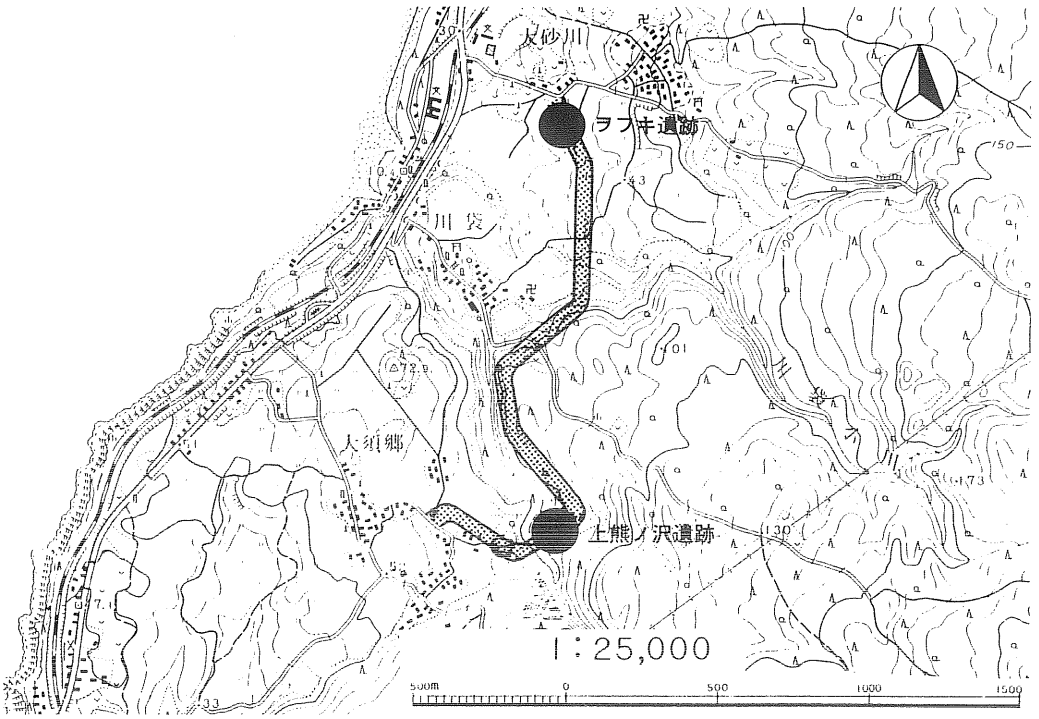
計画路線内に総計33箇所のトレンチを設け、272 ㎡を調査した。その結果を下記にまとめた。

(1)　計画杭No.99～96内では遺構および遺物は確認されなかった。

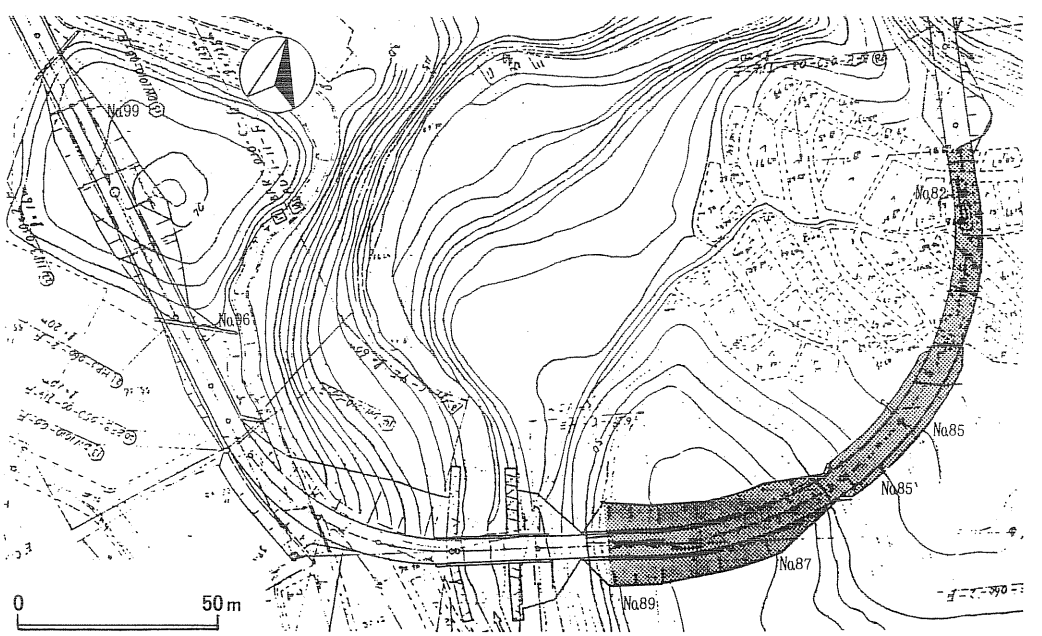
(2)　計画杭No.89～87内では黒褐色土の落ち込み、縄文時代後期の土器破片および石器が検出された。

(3)　計画杭No.88～82内では縄文時代後期・弥生時代の土器破片が検出された。

計画杭No.89～82地区内では、縄文時代後期・弥生時代の遺構のある可能性が高く、したがって路線内1800 ㎡に遺跡の範囲を設定した。

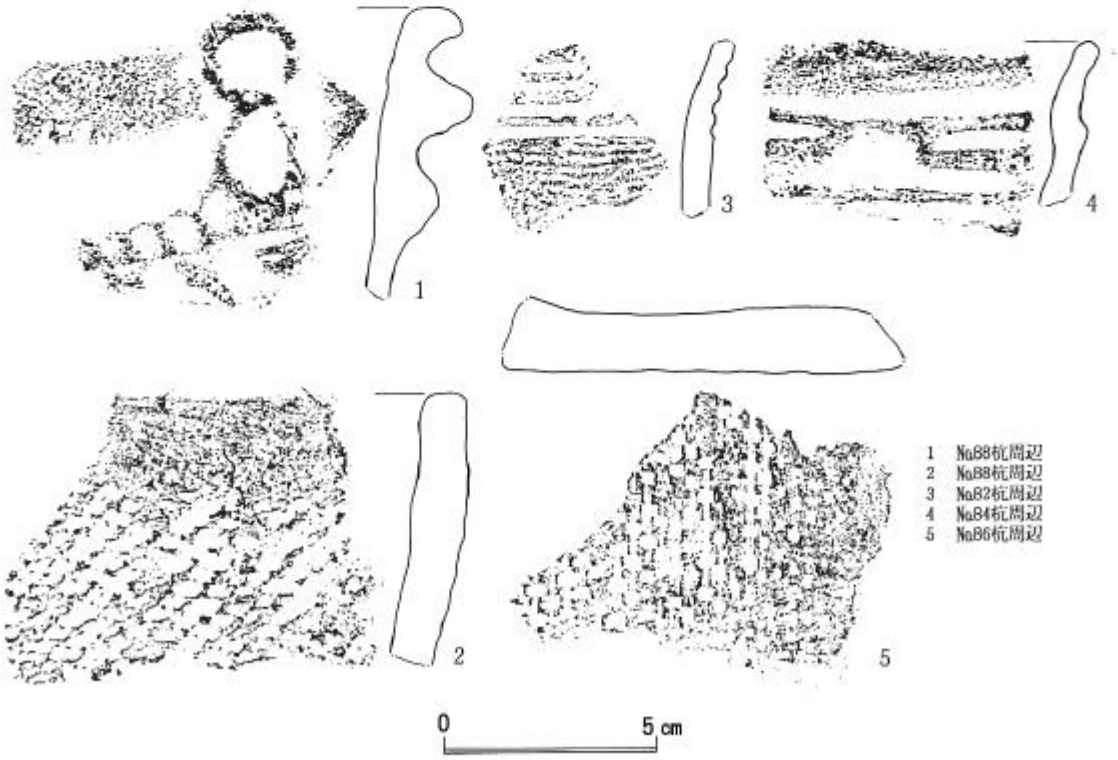


第36図　大砂川地区農免農道整備事業内遺跡位置図



第37図　上熊ノ沢遺跡工事区域内遺跡範囲図

第38図　上熊ノ沢遺跡　№88杭付近トレンチ　（南▶北）



第39図　上熊ノ沢遺跡出土遺物（縄文土器）

ヲフキ遺跡

1　所在地　　由利郡象潟町大須郷字ヲフキ 27 外

2　工事区域内遺跡面積　　約 3,500 ㎡

3　調査期間　　昭和 63 年 12 月 20 日～ 24 日

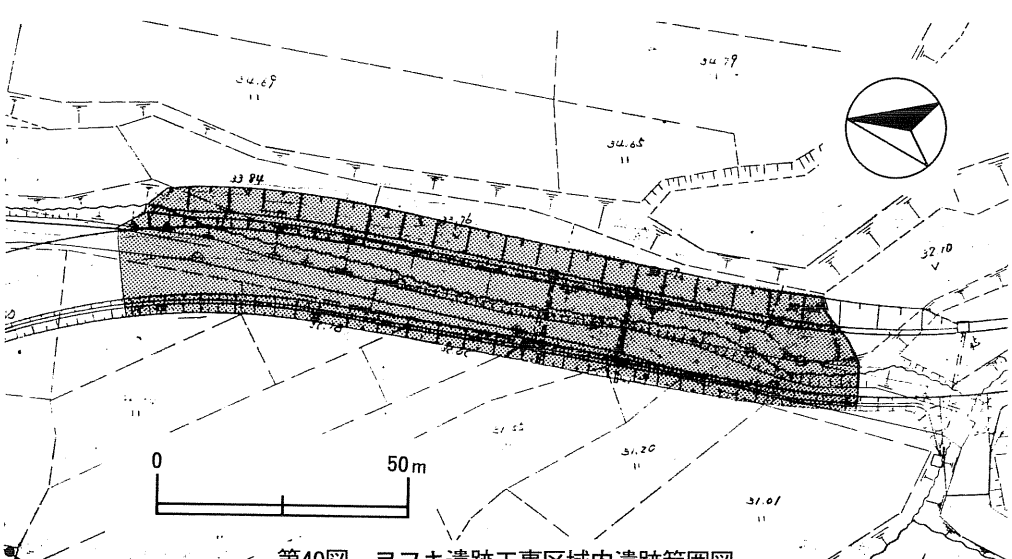
4　調査担当者　　冨樫泰時、船木義勝

5　遺跡の立地と現況

遺跡は鳥海山麓の両端にいくつもできている舌状の丘陵上先端にあり、日本海との間にできた砂丘によってできた凹地に面した東側にあり、標高 33 m ほどのところにある。現在すべて水田となっているが、水田は段をなし、かっての地形はそれによって推測することができる。遺跡の直ぐ南を小川が流れている。

6　範囲・時代・性格

道路計画路線内に幅 1 m のトレンチを任意に設定し発掘調査を実施した。その結果、遺跡の先端（西端）部が道路に係ることが判明し、図のように長さ 130 m ほど発掘調査が必要と判断された。ほとんどが遺物包含層で、1 箇所で配石遺構（縄文時代後期）が確認された。遺物包含層の遺物は縄文時代前期の後半、大木 5 式のものがある。他に小玉 1 点、磨製石斧、石鏃、石匙などがある。遺跡の先端部の一部を発掘しただけであるのでその性格ははっきりしないが、出土遺物は須恵器片まであり、近くにいろいろな時代の遺跡があったと推測される。



第40図　ヲフキ遺跡工事区域内遺跡範囲図